

令和4（2022）年度

下野市の環境に関するアンケート
結果報告

目次

調査結果の概要.....	1
1. 市民アンケート.....	2
【問1】回答者の属性.....	2
【問2】下野市の環境について.....	5
【問3】あなた自身の身近なエコ活動について.....	6
【問4】地球温暖化・気候変動の進行に伴う影響について.....	9
【問5】SDGsやカーボンニュートラルについて.....	10
【問6】住まいのエコ設備等の状況について.....	11
【問7】脱炭素社会に向けて優先すべき内容について.....	12
【問8】環境に関するイベントや講座、保全活動への参加について.....	14
【問9】市が重点的に進めるべき取り組みについて.....	17
【主な自由記載意見（市民）の概要】.....	22
2. 事業者アンケート.....	25
【問1】回答事業者の属性.....	25
【問2】事業所から見た下野市の環境について.....	28
【問3】事業所で進めている環境対策について.....	29
【問4】事業活動に関連する地球温暖化・気候変動の影響について.....	30
【問5】事業所でのエコ設備等の導入状況について.....	31
【問6】脱炭素社会の実現に向け、優先すべき内容.....	32
【問7】環境に関するイベントや講座、保全活動への参加について.....	33
【問8】今後、市が重点的に進めるべき取り組みについて.....	34
【自由記載意見の概要-事業者】.....	38
3. 小中学生アンケート.....	39
【問1】あなたのこと.....	39
【問2】あなたの家のまわりの身近な環境について.....	40
【問3】あなたが知りたいと思う環境の問題.....	43
【問4】毎日の生活でおこなっている環境にやさしい取り組み.....	46
【問5】参加したことがある環境を守る活動.....	48
【問6】環境をどのようにすれば良いと思うか.....	50
【自由記載意見の概要（小学生・中学生）】.....	53

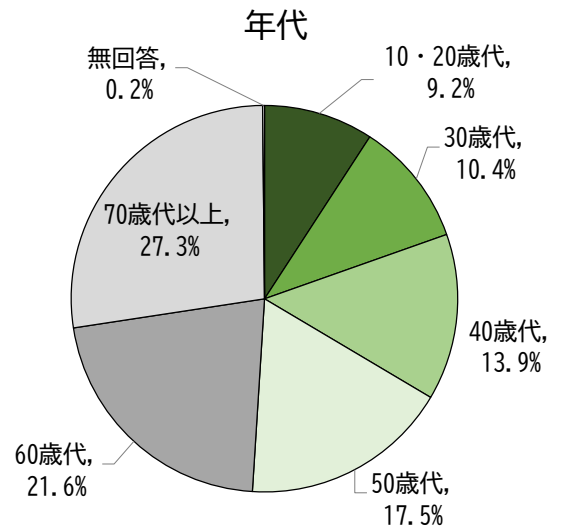
1. 市民アンケート

【問1】 回答者の属性

① 年代

回答者の3割弱が70歳代以上と最も多く、年代が下がるに従い回答割合が低くなっています。

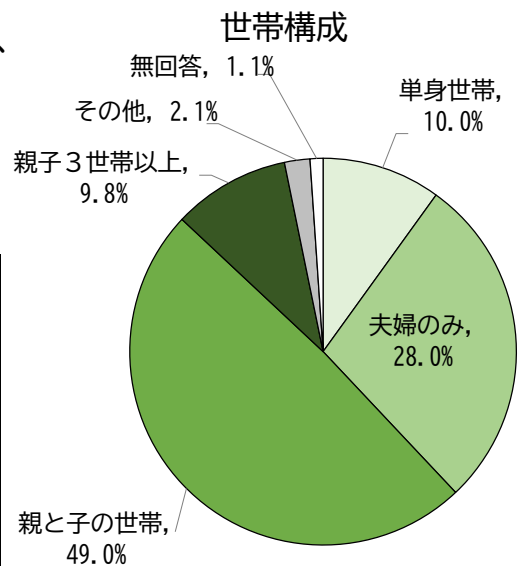
選択肢	回答数	割合 (%)
10・20歳代	60	9.2%
30歳代	68	10.4%
40歳代	91	13.9%
50歳代	114	17.5%
60歳代	141	21.6%
70歳代以上	178	27.3%
無回答	1	0.2%
合計	653	100.0%



② 世帯構成

回答者の約半数が「親と子の世帯」からなり、「親子3世帯以上」も含めると約6割近くが2世帯以上の世帯構成からなっています。また、「夫婦のみ」の世帯も3割近くあります。

選択肢	回答数	割合 (%)
単身世帯	65	10.0%
夫婦のみ	183	28.0%
親と子の世帯	320	49.0%
親子3世帯以上	64	9.8%
その他	14	2.1%
無回答	7	1.1%
合計	653	100.0%



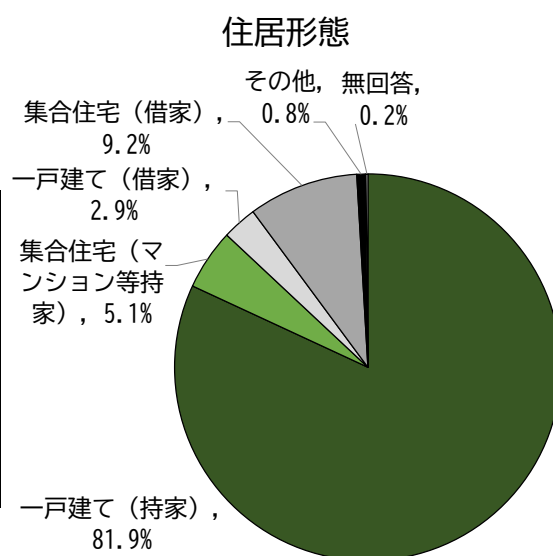
【その他】 記載内容

- 夫婦と親世帯（5件：「夫婦と親」「夫婦・祖母」「夫婦と義母など」）
 「親と娘」「夫婦と子」「姉弟・子ども」「親と子世帯+父親の兄弟」
 「母・兄・姉・自分の4人家族」「5人、親夫婦、子夫婦・子」「上下2世帯」

③ 住居形態

回答者の 8 割以上が「一戸建て（持ち家）」
となっています。次に「集合住宅（借家）」が
1割弱となっています。

選択肢	回答数	割合 (%)
一戸建て（持家）	535	81.9%
集合住宅（マンション等持家）	33	5.1%
一戸建て（借家）	19	2.9%
集合住宅（借家）	60	9.2%
その他	5	0.8%
無回答	1	0.2%
合計	653	100.0%



[その他] 記載内容

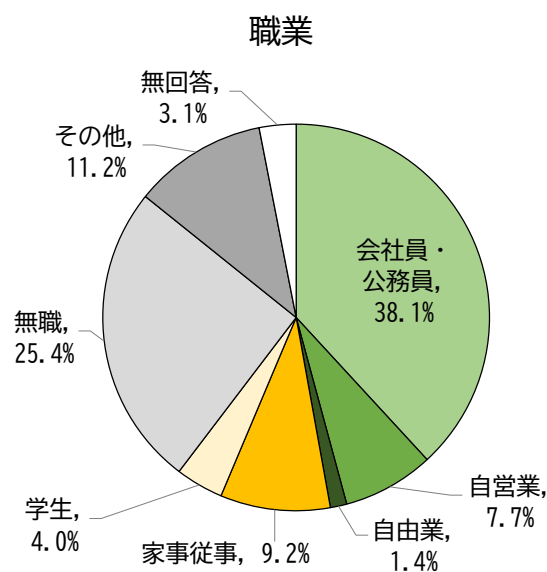
学生寮、一戸建て（家族の持ち家）

④ 職業

回答者の職業は、「会社員・公務員」が 4 割
弱と最も多く、次いで「無職」が 2.5 割、「そ
の他」が約 1 割となっています。

「無職」と年代「70 歳代以上」の回答者割合
がほぼ同じ割合となっています。

選択肢	回答数	割合 (%)
会社員・公務員	249	38.1%
自営業	50	7.7%
自由業	9	1.4%
家事従事	60	9.2%
学生	26	4.0%
無職	166	25.4%
その他	73	11.2%
無回答	20	3.1%
合計	653	100.0%



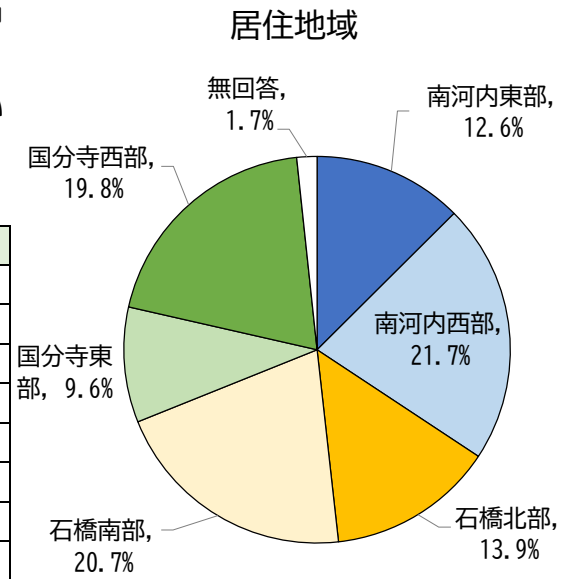
[その他] 記載内容 ※ () 内は記載者数

農業 (5)、パートやフルパート (49)、アルバイト (3)、医療従事・介護職 (5)
シルバー人材 (2)、非常勤 (1)、地方公務員法上の非常勤特別職 (1)
年金生活者 (2)、会社役員 (2)、専業主婦 (1)

⑤ 居住地域

回答者の居住地域は、「南河内地域」と「石橋地域」がそれぞれ 34～35%、「国分寺地域」が 29%と3地域別にはほぼ同じ割合となっています。

選択肢	回答数	割合 (%)
南河内東部	82	12.6%
南河内西部	142	21.7%
石橋北部	91	13.9%
石橋南部	135	20.7%
国分寺東部	63	9.6%
国分寺西部	129	19.8%
無回答	11	1.7%
合計	653	100.0%



<参考> 年代別属性 ※各属性の無回答は除く、－：回答なし、太字アミかけ：年代別の特徴的な属性

年代		10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	無回答	回答数
回答数		60	68	91	114	141	178	1	653
世帯構成	単身世帯	15.0%	11.8%	5.5%	2.6%	12.1%	12.9%	－	65
	夫婦のみ	8.3%	13.2%	13.2%	24.6%	41.8%	39.3%	－	183
	親と子の世帯	60.0%	66.2%	70.3%	58.8%	35.5%	32.6%	－	320
	親子3世帯以上	15.0%	7.4%	9.9%	10.5%	6.4%	11.2%	－	64
	その他	－	1.5%	－	3.5%	3.5%	2.2%	－	14
住居形態	一戸建て（持家）	71.7%	54.4%	73.6%	86.0%	88.7%	92.1%	100.0%	535
	集合住宅（持家）	3.3%	8.8%	1.1%	6.1%	5.0%	5.6%	－	33
	一戸建て（借家）	－	5.9%	8.8%	1.8%	1.4%	1.7%	－	19
	集合住宅（借家）	21.7%	29.4%	16.5%	5.3%	4.3%	－	－	60
	その他	3.3%	1.5%	－	0.9%	－	0.6%	－	5
職業	会社員・公務員	48.3%	72.1%	59.3%	63.2%	27.7%	2.8%	100.0%	249
	自営業	0.0%	1.5%	8.8%	7.0%	9.9%	10.7%	－	50
	自由業	6.7%	1.5%	－	－	1.4%	1.1%	－	9
	家事従事	1.7%	11.8%	8.8%	11.4%	10.6%	8.4%	－	60
	学生	41.7%	1.5%	－	－	－	－	－	26
	無職	－	－	2.2%	4.4%	31.2%	64.6%	－	166
	その他	1.7%	11.8%	16.5%	13.2%	15.6%	6.7%	－	73
居住地域	南河内東部	15.0%	11.8%	12.1%	10.5%	12.8%	13.5%	－	82
	南河内西部	23.3%	14.7%	16.5%	24.6%	33.3%	15.7%	－	142
	石橋北部	10.0%	16.2%	16.5%	18.4%	10.6%	12.9%	－	91
	石橋南部	25.0%	14.7%	22.0%	21.9%	19.9%	20.8%	－	135
	国分寺東部	6.7%	14.7%	8.8%	6.1%	7.1%	13.5%	－	63
	国分寺西部	16.7%	27.9%	23.1%	18.4%	14.9%	20.8%	－	129

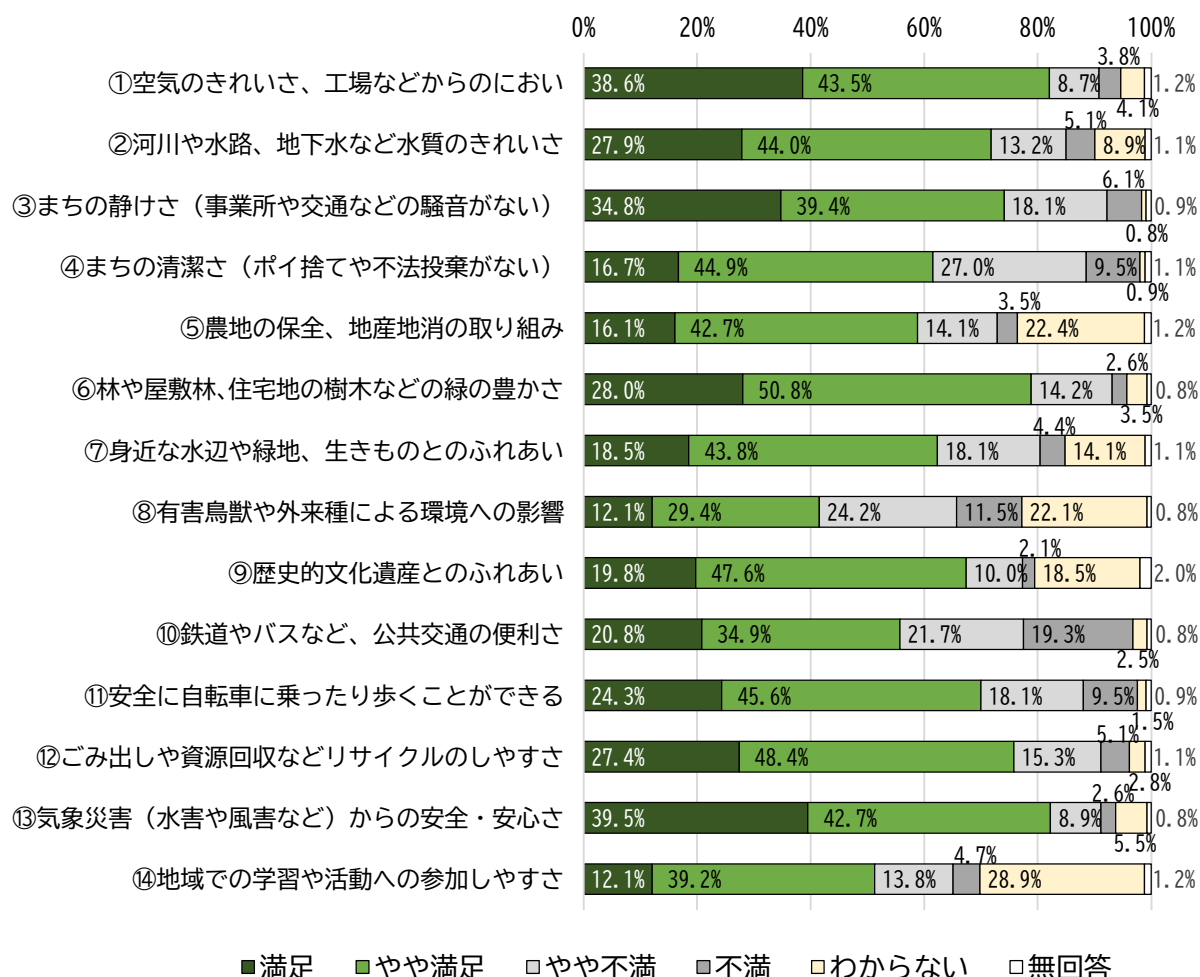
【問2】下野市の環境について

市民の環境に対する満足度（満足とやや満足）では、「空気のきれいさ、工場などからのにおい」「気象災害（水害や風害など）からの安全・安心さ」「林や屋敷林、住宅地の樹木などの緑の豊かさ」はそれぞれ80%前後と高く、また、「有害鳥獣や外来種による環境への影響」を除く各項目とも5割を超え、全般的に高くなっています。

不満度（不満とやや不満）が高い項目は、「鉄道やバスなど、公共交通の便利さ」が4割強と最も高く、「まちの清潔さ（ポイ捨てや不法投棄がない）」や「有害鳥獣や外来種による環境への影響」がそれぞれ35～36%となっています。

事業者アンケートでもほぼ同様の傾向となっています。

下野市の環境について



平成 23（2011）年度調査においても、⑤⑧⑫⑭の項目を除きほぼ同じような内容をたずねており、各項目とも 10 年前と比べ満足度が上昇しています。特に、②河川など水質のきれいさでは 30 ポイント以上高くなっています。

上昇幅が少なかった項目は、④まちの清潔さ（ポイ捨てや不法投棄がない）、⑬気象災害からの安全・安心さ（平成 23 年度調査では「自然災害の少なさ」）で、満足度はほぼ同じ割合となっています。

【問3】あなた自身の身近なエコ活動について

日常生活での環境にやさしい行動で市民の7割以上が「ほぼ行っている」との取組は、

- ⑬ごみの分別、リサイクルによるごみの減量（85%）
- ②冷暖房機器の設定温度を控えめにするなど省エネの実践（74%）
- ⑩レジ袋など、ごみになるものを買わない・貰わない（73%）
- ⑪詰め替え製品や再生材料の製品などの利用（72%）

で、ごみの減量や節電等に関する取組は、小中学生アンケートでも「いつも行うようにしている」と「だいたい行っている」が9割以上となっており、普及していることが考えられます。

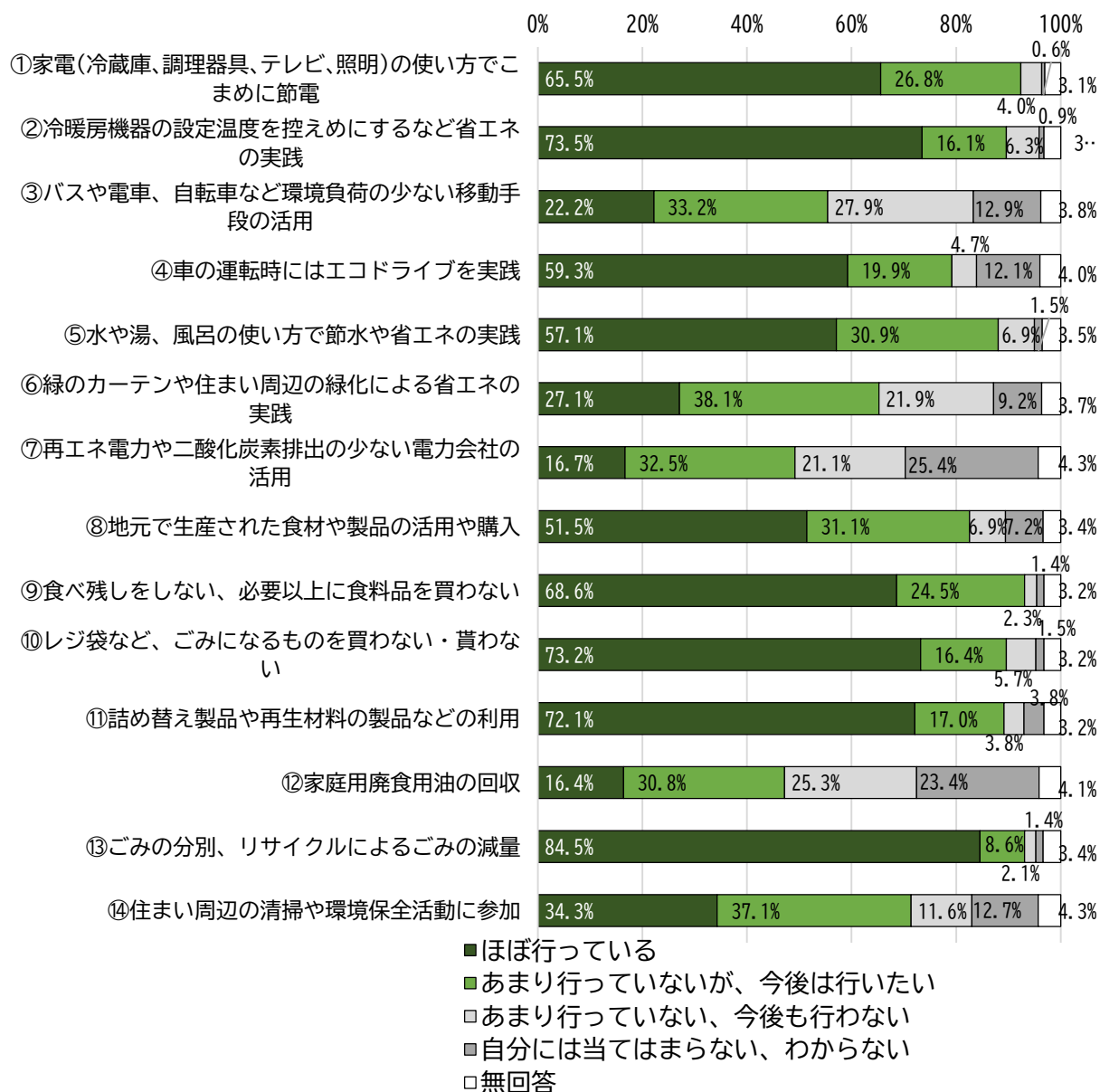
反面、「ほぼ行っている」割合が低い項目は、

- ⑫家庭用廃食用油の回収（16%）
- ⑦再エネ電力や二酸化炭素排出の少ない電力会社の活用（17%）
- ③バスや電車、自転車など環境負荷の少ない移動手段の活用（22%）

となっています。

平成 23（2011）年度調査においても、次ページの図の⑥⑪⑫⑬を除く項目についてほぼ同じような内容をたずねています。全般的に行動率の上昇が見られ、普及が広がっています。特に、レジ袋削減やエコドライブの実践、地産地消の取組については 20 ポイント以上上昇しており、2020 年のレジ袋有料化制度や自動車性能の向上と普及なども大きな要因と考えられます。

身近なエコ活動について



[その他] 記載内容

【地球温暖化対策関連】

- 1 エアコンをなるべくつけなくて扇風機で過ごす。
- 2 子供部屋があるが、節電のため、夏場は同じ部屋に寝るようにしている。
- 3 エアコンを一室に集中
- 4 化石燃料の使用の規定
- 5 タイヤの空気圧調整

【水資源関連】

- 6 雨水タンクを活用して散水等に使用
- 7 食べかす、油分とかは拭き取ってから洗剤を少なく使っています。
- 8 食器洗いの時に排水を汚さないよう、紙でふき取ってから洗う。
- 9 お風呂の残り湯で洗濯

【ごみ減量・資源化関連】

- 10 物を増やさない。
- 11 エコバッグの利用
- 12 マイボトルを持参
- 13 生ごみ（野菜屑など）は畑の肥料に使用
- 14 生ごみは家の前の畑に埋める。
- 15 コンポスト容器を使用して生ごみはほぼ出しません。
- 16 生ごみは庭に埋めている。
- 17 古い布や布団を切って、清掃や汚れものをぬぐって捨てることに利用している。
- 18 リユース活用
- 19 裁縫して服や靴下を使用している。
- 20 子どもたちに牛乳パックのリサイクル工作の指導
- 21 ペットボトルのキャップを集めています。
- 22 ペットボトルのフタとプルタブを集めて商工会に持って行っています。
- 23 ペットボトルのキャップ（プラごみとして捨てる人多し）、空き缶のプルタブ、班内で集めて、公民館入口に収集あっても分からない人多し。
- 24 自治会内で、別組織で、新聞紙・段ボール等の回収を行っています。
- 25 リサイクル店で売買（本、衣類等）
- 26 プラごみや有資源ごみの分別をきちんとして出すこと。
- 27 ごみの分別には常に気を使っている方がいるので、年2回程度個人的に気持ちだけ品で御礼しています。
- 28 以前は普通にごみ出してきた物が、建築廃材として出せなくなった物があり、リサイクルなどでリユースなどとして使用して欲しい。また、出せなくなった時点で税金を下げたい。

【環境美化活動関連】

- 29 烏ヶ森の調整池周辺の清掃
- 30 ボランティアクラブでできるごみ拾い等を行っている。
- 31 年に一回の周辺の清掃クリーンデイには参加しています。
- 32 家の前、柴公園で掃除などを行っている（落葉、除草など）
- 33 犬の散歩中ごみが落ちていれば拾います。
- 34 ごみが落ちていたら拾うようにしている。
- 35 一人で散歩時、ごみなど目に付く物を拾う。
- 36 道路にマスクやレジ袋等落ちていたら拾っている。
- 37 自分の家の周り・市の道路の草に除草剤をかけたりしている。
- 38 アパート敷地内、公園の草むしりをたまにしている。
- 39 周りの草むしり
- 40 自宅周辺の道路の除草は常にしています。
- 41 週一で自宅周りのごみ拾い清掃。特にタバコのポイ捨てが多い。
- 42 友人が運転中、風で新聞紙が飛んできて、運転席のフロントガラスに張り付いた話を聞いたので、歩道に落ちているビニール袋や紙袋は拾って処分している。以前はコミセンで回収があったが今は遠くなったので、ごみで出すようになる。また近くで回収できるようにして欲しい。
- 43 今も第3日曜9：00～10：00位まで、家庭の母は、自分の家の周りを清掃している。

【その他】

- 44 市でしっかりエコ活動をしてください。住民税の方です。

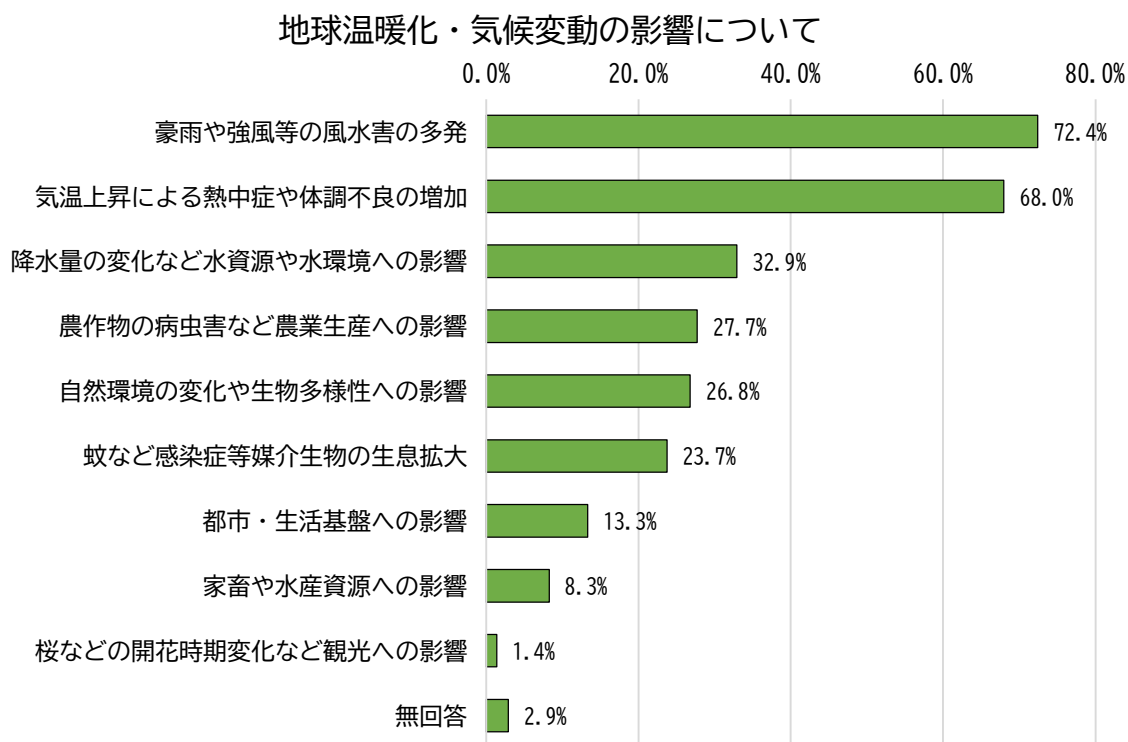
【問4】地球温暖化・気候変動の進行に伴う影響について

近年、世界や国内各地で記録的な集中豪雨による水害等の発生をはじめ、台風や竜巻などの風害、干ばつ被害などが多発しており、地球温暖化による地球表面の気温上昇など気候変動によるものが多いといわれています。

県内でも、令和元（2019）年の梅雨明け後の連続する猛暑により熱中症搬送者数の急増や、10月の令和元年東日本台風に伴う記録的な豪雨をはじめ、平成27（2015）年9月関東・東北豪雨や平成23（2011）年台風15号などで、大きな被害が発生しています。

こうした情勢を受けて、市民の7割前後が気候変動に伴う影響として、「豪雨や強風等の風水害の多発」や「気温上昇による熱中症や体調不良の増加」などに特に懸念を示しています。

市の環境の現状に対する考えでは「水害等からの安全・安心」に係る項目の満足度が高い反面、今後の重要な課題として認識されています。



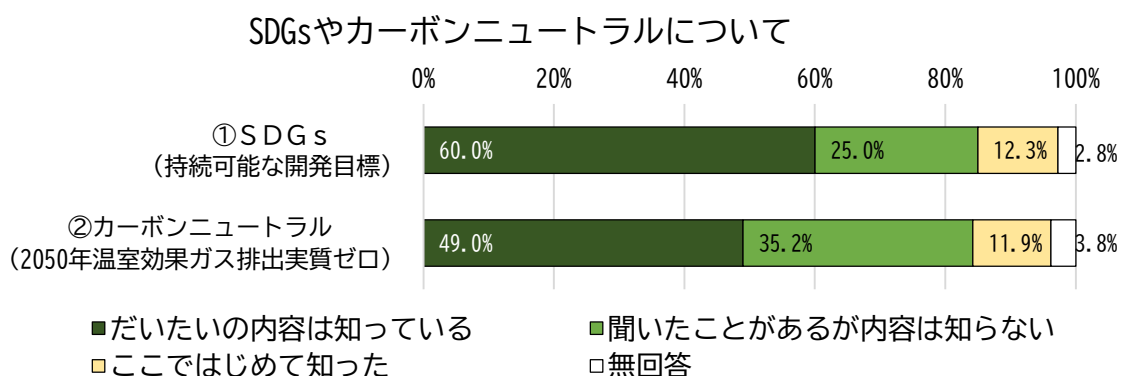
[その他] 記載内容

- 1 巨大台風化
- 2 時季外れな気温の変化
- 3 7年前の線状降水帯による冠水で、下水の行き場が塞がれ、車庫から車が出せなかった。このような事象がまた起こり得る不安はある。
- 4 気候変動による生活への影響
- 5 カミナリによる感電
- 6 日中の屋外活動ができなくなる。
- 7 今まではなかった病気の流行
- 8 COVID-19 など進行、感染症の出現
- 9 農業生産打撃による値上がり
- 10 ハチ、コウモリ多くなっている、ハト。
- 11 地域の動物変化（たぬきの増加）
- 12 原子力発電にて災害時対応
- 13 市内の太陽光発電設置周辺の反射熱の拡大に伴う高温化。インフラについては水道管の長期使用に伴う老朽化、市道の補修作業の計画性
- 14 未来の生活
- 15 安価な市内バスなど、交通機関の利便性がないと思います。
エコドライブ推奨とはいえ、電力補充するソーラー設備が家にない。家計上設置できない。
- 16 対策をしても大きな効果が得られないことにお金を使ってしまうことが一番不安です。
- 17 私たちから孫への自然環境の変化はどんどん悪化していくので、どうしたら次の世代にこのことを伝えて行くか？皆で気付き自然を守る活動をし続けて行き、未来に向かって頑張り伝え守っていきたい。守らないと美しい日本は存在しなくなってしまう。一刻も早く活動しましょう!!
- 18 人災（地球への悪影響というものは、ほぼ人間によるものだと思う。）
- 19 栃木にあった低雑森林が20年の間にほぼ伐採され、無くなっている為、温かくなっていると思います。
- 20 必要以上の森林伐採はどうか？考えて欲しい。

【問5】SDGsやカーボンニュートラルについて

「SDGs」については6割の市民が「だいたいの内容は知っている」としています。また「カーボンニュートラル」についても5割近くの市民が「だいたいの内容は知っている」としており、言葉を聞いたこともあると合わせると多くの市民が知っています。

SDGsについては、若い年代ほど「だいたいの内容は知っている」割合が高い傾向が見られ80%近くになっています。カーボンニュートラルについては40歳代と70歳代以上を除く各年代で50~55%となっています。



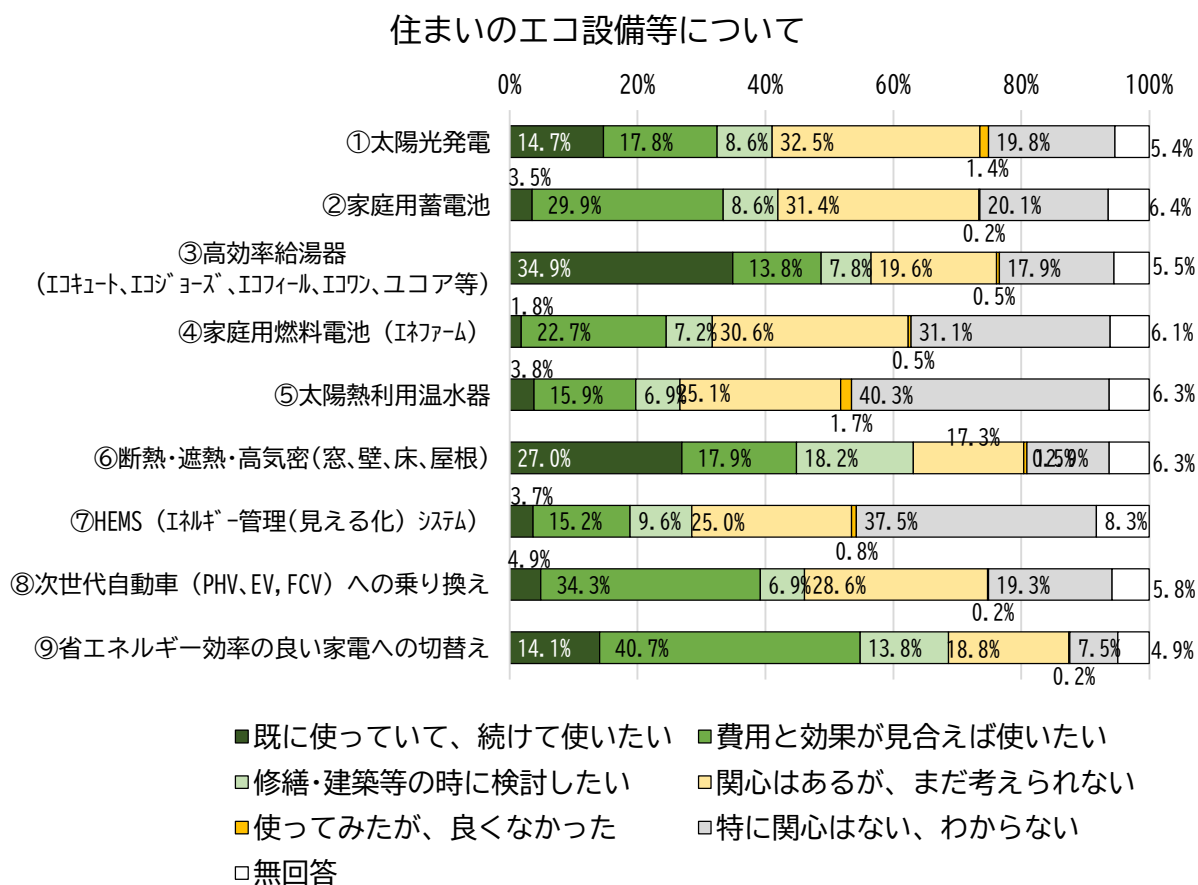
【問6】住まいのエコ設備等の状況について

住宅や暮らしの中での再エネや省エネ設備等の導入状況としては、③高効率給湯器は3分の1以上の世帯で活用されているほか、建物や居室の断熱化・気密化は27%となっています。これらは、回答者の年代別では特に40～50歳代の世帯での活用が高くなっています

太陽光発電については15%の世帯で活用しているとしており、令和2（2020）年度のFIT制度対象の10kW未満の太陽光発電件数2,596件（世帯数割合約11%）を超えています。また、10年前の平成23（2011）年度アンケート調査での割合8%より7ポイント増加するなど活用が進んできていますが、「関心はあるが、まだ考えられない」も3割以上と高くなっています。

既に導入している割合が5%未満の普及が進んでいない項目は、家庭用蓄電池や燃料電池、HEMS、次世代自動車となっています。次世代自動車や蓄電池では「費用と効果が見合えば使いたい」が3割前後あり、今後の課題となっています。

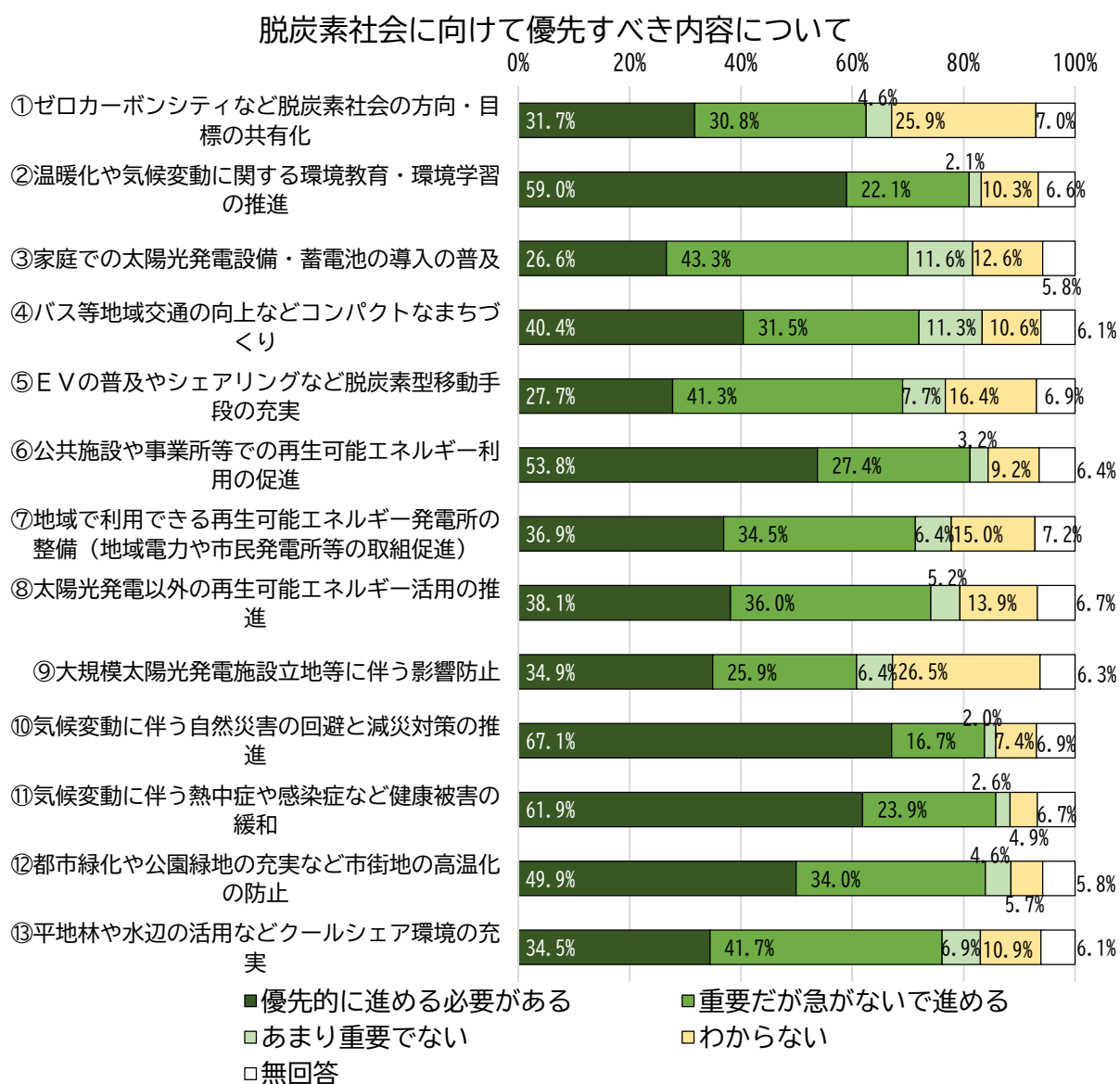
また「特に関心がない、わからない」が40%前後と高い項目は、太陽熱利用温水器やHEMSであり、今後、費用対効果の改善や技術開発、普及啓発などが課題となっています。



【問7】 脱炭素社会に向けて優先すべき内容について

カーボンニュートラル（脱炭素社会）の実現に向けて優先して進める必要がある取組としては、気候変動の影響による自然災害の回避と減災、熱中症などの健康被害の防止が6～7割と最も高く、次いで温暖化や気候変動に関する環境教育・環境学習の推進が6割弱となっています。

「優先的に進める必要がある」と「重要だが急がないで進める」を合わせた割合では、各項目とも60%以上となっており、これらの取組を総合的に進めていくことが重要であると考えていると言えます。しかし、多くの項目ではその効果が見えにくいことや導入費用の課題、再エネ施設立地による環境問題など、さまざまな課題も見られるなど、「重要だが急がないで進める」との考えも3～4割前後と多くなっていると考えられます。



年代別や居住地域別でもほぼ同様の傾向となっています。また、同じ設問内容の事業者アンケートでも同様の傾向となっており、重要性などは共通していると考えられます。

[その他に優先すべきと思うこと]

- 1 太陽光発電において大規模化も必要だが、可視光以外の波長でも高効率な発電ができるような研究・開発が必要と思う。緑地や水辺を増やすと、虫（蚊）の生息拡大という弊害も生じるため、その防止策の検討も同時進行が必要と思う。地域電力や市民発電等の取組推進は、上手く事業化すれば失業率の改善にも繋がるので良い取組だと思います。
- 2 先ずは、人間を守ることが大事です。次に水、家の環境です。早くしないと大変なことになるでしょう!!そして、車関係です。これ以上、空気を汚さないことが重要なのと、日本だけでやるのではなく、世界中で足並みを合わせて取り組む問題です。（南極の氷が溶け出しているので早急な対策が必要です。）最終的にはもっと緑を増やし続けることです（浄化空気）、また、このようなアンケート調査も継続して行って欲しいです。
- 3 町全体が高齢化してきているので移動手段を考える必要があるのではないのでしょうか？今でも車の運転が危うい人がたくさんいます。
- 4 CO₂排出量の可視化を行い、現状分析からCO₂排出量削減に対する取組を行う必要がある。
- 5 温暖化や気候変動に関する環境教育や、脱炭素社会に向けての教育を進めて欲しいと思います。
- 6 化石燃料の使用不可
- 7 原子力発電の再稼働と火力発電の停止
- 8 原発の再稼働によるCO₂排出量低減、発電所の化石燃料低減
- 9 原発再稼働
- 10 佐野方面に行くと山の斜面などに太陽光発電の黒いパネルが沢山置いてある。何年後に耐用年数がきたら、どのように処分できるのか？有害物質を出さずに安全に処理できるのか？福島安全神話が崩れたように、処分のことをしっかり考えてから太陽光発電を進めて欲しい。
- 11 雷を蓄電する研究と早期実現は雷県から。
- 12 ⑧の例として、水力を利用したエネルギー対策の推進など自然の力を活用されたい。
- 13 省エネのために自転車を活用することが有効と考えるが、自転車が安全に走行できるための道路条件が下野市街地に限って見ても悪すぎます、早い対応を望みます。
- 14 市民バス
- 15 空港へのバス
- 16 脱炭素に向けインフラの整備。EV車の普及による現技術の衰退や雇用問題。
- 17 自動車のEV化
- 18 電気自動車購入への市での給付金制度
- 19 大規模災害が起きた時の避難場所の確保。
- 20 ごみ処理の問題
- 21 ごみ処理場の建設
- 22 フードロス減らすための取組
- 23 簡易包装、脱プラスチック、公共施設の多目的利用、市役所の1Fは無駄に広い、シェアオフィスか、学習スペースにしたらどうでしょうか。
- 24 現在市では切った板などを小さく揃えてごみとして出すようになっているが、家に林がある人はとてもそんな出し方では出し切れず、屋敷林がどんどん減っている。屋敷林を守る方法を考えてほしい。
- 25 住居近くで良く見かける野焼きで、風が強い時でも関係なく行っている。そのため、洗濯物ににおいがつき、換気もできない。本当に迷惑です。
- 26 太陽光発電施設を作るために、森林を伐採するなどを禁止にするべきだと思います。原発が動いていない、それに見合う代替の発電が火力しかない時点で、EVなどの大量の電気を必要

とする物の推進は、脱炭素に逆行していると思う。太陽光発電は安定な電源ではないため、少なくとも蓄電池が普及するまでは補助でしかない。

- 27 木を植える、日陰で休める場所を増やす。
- 28 緑地を増やす。住宅緑生垣植栽の補助、電気自動車の推進補助。
- 29 シェアリングエコノミーの推進（例えば、公民館でメルカリ教室を開くとか）
- 30 もっと各家庭に合わせて対策（車・EV）を考えて下さい。税金だって払いたくなくなりますよ。
- 31 科学的事実に基づいた正しい知識の発信・共有
- 32 さまざまな論文があいまいなため、よく分からないということが私の思うところです。
- 33 答えることが分からない。
- 34 問7は少し難しい？答え出しにくい

【問8】環境に関するイベントや講座、保全活動への参加について

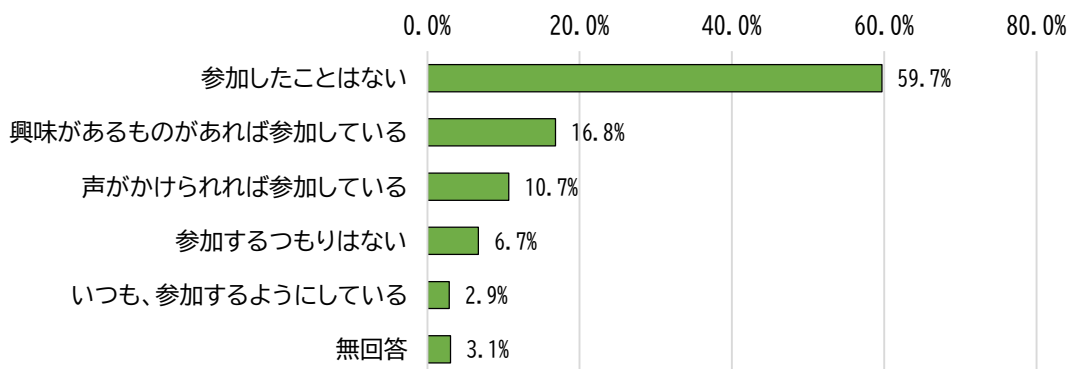
(1) 環境保全活動への参加について

環境に関するイベントや講座、環境保全活動に「参加したことがない」が6割近くあり、特に年代が低いほど「参加したことがない」の割合が高い傾向が見られるなど、ここ数年新型ウィルス対策に伴う参加機会の減少なども考えられますが、今後の環境保全活動等の取組を進めていく上での課題となっています。

しかし、興味があるものや声をかけられれば参加しているも併せて3割弱あるほか、(2)の参加してみたいイベントや講座、活動内容についても多くの意見が寄せられているなど、参加への関心は高いと言えます。

特に親子や子どもと一緒に参加できる分かりやすいイベントや講座、活動などへの期待が多く見られます。また、他の分野のイベントや講座・活動と連携した参加機会の充実などが期待されます。

環境に関するイベントや講座・保全活動への参加について



(2) 参加してみたいイベントや講座、活動について（自由記載）

- 環境にやさしい食事の店等に行ってみるイベント
- 環境問題などを楽しく学べるイベント
- 環境保全のため、個人が具体的に一番できることを教えて欲しいです。
- 環境保全活動がどういうものか分からない。
- お祭りなどのイベントの中で周知できるようにすると良いと思う。
- 下野市全体で盛り上がるようなイベントならば
- 家庭でできる環境保全の方法、市行政が取り組むことのできる政策、行動の学習。
- 自分にメリットがある内容であれば参加したいです。
- （予算のことを考えずに言うと）イベント等に参加すると何かの特典がある。
- 景品(地元野菜など)が出るイベント、参加すると農産物やポイントがもらえる。参加特典あり。
- SDGs 理解を深めたい。脱炭素等、SDGs の様な具体的な企画に参加したい。
- 温暖化がもたらす影響についての講座
- 温暖化や気候変動に関する環境学習。
- 温暖化防止など
- 地球温暖化、海面上昇、そこで暮らす人々の生活の意味や疑問など。
- 家庭の省エネ
- 化石燃料を使わない新たな燃料による発電
- CO₂ をより多く吸収する植物を遺伝子組換えにより開発するイベント、実践型イベント。
- ごみゼロ運動。ごみの削減、有効活用
- ごみ処理場の見学。
- リサイクル回収。フリーマーケットなど
- 量り売り(何グラム何円。容器持込または購入)。はじめはイベントから徐々に店舗での普及へ。
- 川の土手の清掃、学校のまわり。
- 講座やイベントに興味は無いのですが、クリーン作戦のような活動なら参加したい。もちろんコロナが落ち着いてからですが…。
- 身近な環境美化活動。清掃活動、ごみ処理場見学、田畑に使用されている農薬の勉強会。
- 市全域でごみ拾いを実施、拾ったごみの種類に応じたポイントを設け、ポイントが一番高いチームには何らかの賞品を渡す。
- 自治会の活動（クリーン作戦、小枝切り等）は参加している。家の周りの環境整備を独自に行っているが、これは昔からの風景です。
- ただごみ拾いをする。という焼け石に水のようなイベントではなく。市はどのような市が目標で、市民にどう協力して欲しいのかを具体的にわかるイベント。
- 平地林を増やす植樹活動。植林。平地林保全、絶滅危惧種保存
- 里山の保全、屋敷林の効用についてなど。
- 昔、大松山公園でやったホタルの鑑賞。ホタルを増やす活動。
- 川の水質と生きものについての調査に学生が参加する。
- 地域の緑化に対する修繕や開発活動。地球ではなく身近な環境に関するもの。
- 地元の環境保存講座、生きもの調べ等、身近な問題に関する活動。
- 哲学の道の除草、コスモスの種蒔き
- 農作業ボランティア
- 既に公民館等で実施している街歩き
- やはり、人を守ることです。環境改善と今、身の回りで困っていることを皆で話し合い、少しでも改善することが大切です。そして意識改革すべき。ずっと市民をまきこみながら自然を守る活動は今後も続けることが大切なことです。行政と市民で協力し合いながらより良い町づくりをしていきたい！！
- 公園や道路等に散布する除草剤の散布基準やルール
- 住宅・交通と環境について
- 安全と衛生について
- 今後の環境の変化と対策（一人ひとりができるもの）について
- 常識やルールの見直し、新常識・新ルールの勉強会
- 大人も子どもも楽しめて、堅苦しくないイベント。
- 小さな子どもと一緒に楽しく参加できるものならいい。
- 小さい子から老人までわかるわかりやすい講座
- 小さな子ども連れでも参加できるお祭り形式のもの
- 子どもが興味を示し参加したくなるようなイベント

- 子どもたちが参加できるようなイベント、夜も参加できるようなイベント、スポーツなど
 - 幼児が興味をもって参加できそうなものには参加できそうです。
 - 子どもも一緒に参加できるようなもの。分かりやすく、子どもも学べるもの。
 - 子どもも参加できるイベント。子どもと共に楽しむ体験できる活動
 - 親子で参加して楽しいイベント。親子や家族で参加できるもの。
 - 親子で参加するものやエコイベントなど気軽に参加できるもの。
 - 親子で参加できる植樹や動物保護など
-
- 高校生が参加しやすいもの。同世代の人同士で楽しめるもの
 - 幅広い年代の方と一緒に議論できるイベント
 - あまり難しい内容でなく、身近なもの。
 - 身近な場所で行われているものなら。
 - 体験型環境学習会
-
- 外国に行くことがない今、在日外国人の母国の暮らし方、話し方、何故日本にいるかを勉強したい。
 - タイミングが会えば、興味があれば参加してみたい。
 - 休みと講座の日が合えば参加する。市が環境保全の活動状況の講座
 - 休日開講、定員多め、学校の授業参観と併せて開催など。
 - 仕事が休みの時なら参加します。
 - 自治会が主体で行うものなら参加を考える。
 - 石橋地区では公民館が建設中なので、完成してからのいろいろな活動に期待したい。
 - どういったことを伝えたいのか、また今後に生かせればによって、内容による。
 - とちテレで深夜にやっていたら見てみたい。
 - どのようなイベントがあるのか分からないので、発信して欲しい。
 - どんなイベントがあるのかも把握していないので判らない…。
-
- イベント会場までの足が無い時はとっても残念
 - 持病があるからイベントをやる場所に行って参加することができない。家にいても参加できる形態が良い。
 - 参加する体力がありません。年齢的にもあまり意欲なし。85歳の今は参加していない。
-
- 今は分からない、よくわからない(4)、わかりません(3)、逆に何があるのか?
 - 興味なし
-

【問9】市が重点的に進めるべき取り組みについて

(1) 地球温暖化防止・気候変動への適応、脱炭素社会の実現に向けて

地球温暖化防止・気候変動への適応に向けて、市が重点的に進めるべきと考えている取組は、「公共交通・地域内交通の確保」が最も多く、次いで、気候変動の影響に関する情報の提供や対策、省エネ意識の普及促進、再生可能エネルギー導入促進が、他の項目より突出しています。

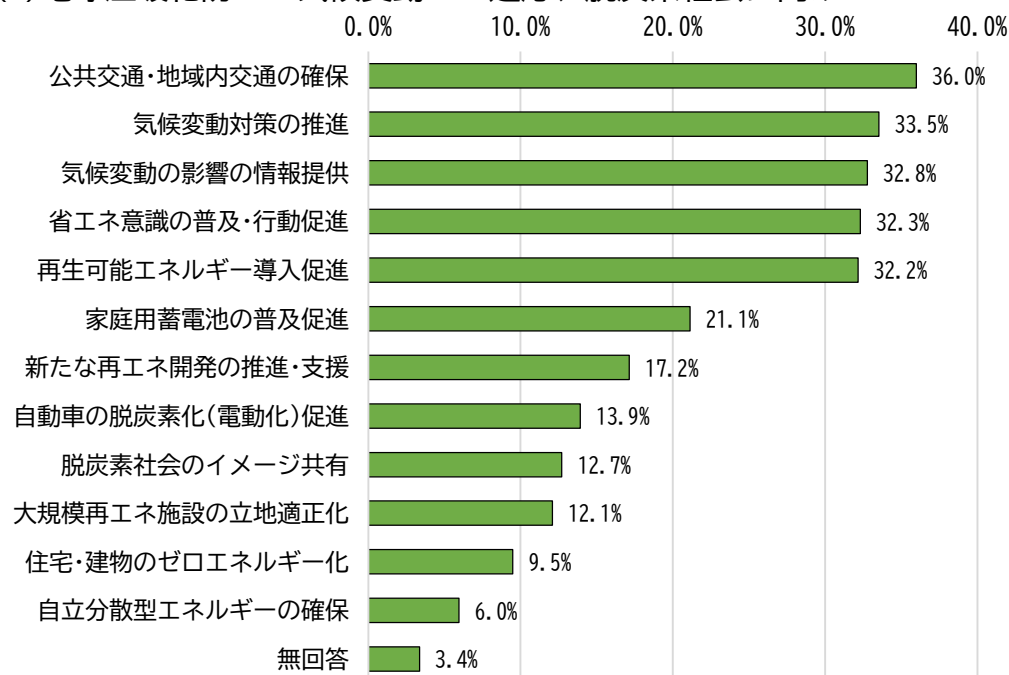
年代別では、「公共交通・地域内交通の確保」は30～40歳代、70歳代以上で高く、気候変動関連や再生可能エネルギー導入促進は10・20歳代で特に高くなっています。

なお、事業者では「再生可能エネルギーの導入促進」が最も高く、「公共交通・地域交通の確保」と順位が入れ替わっています。

本市は、中央部をJR宇都宮線が通過し、3駅を中心に交通利便性が高い反面、東西地域とのバス路線が少なく、日常生活での自動車利用に伴うCO2排出削減にあたっては「公共交通・地域内交通の確保」が重要と考えているといえます。

平成23（2011）年度調査の「バス等公共交通の利便性の向上」に比べ、10ポイント以上高くなっています。また、省エネや再エネへの期待も「省エネ対策や自然エネルギーの有効利用」に比べ5ポイント程度高く、10年前と比べ、重要性が高くなっています。

(1)地球温暖化防止・気候変動への適応、脱炭素社会に向けて

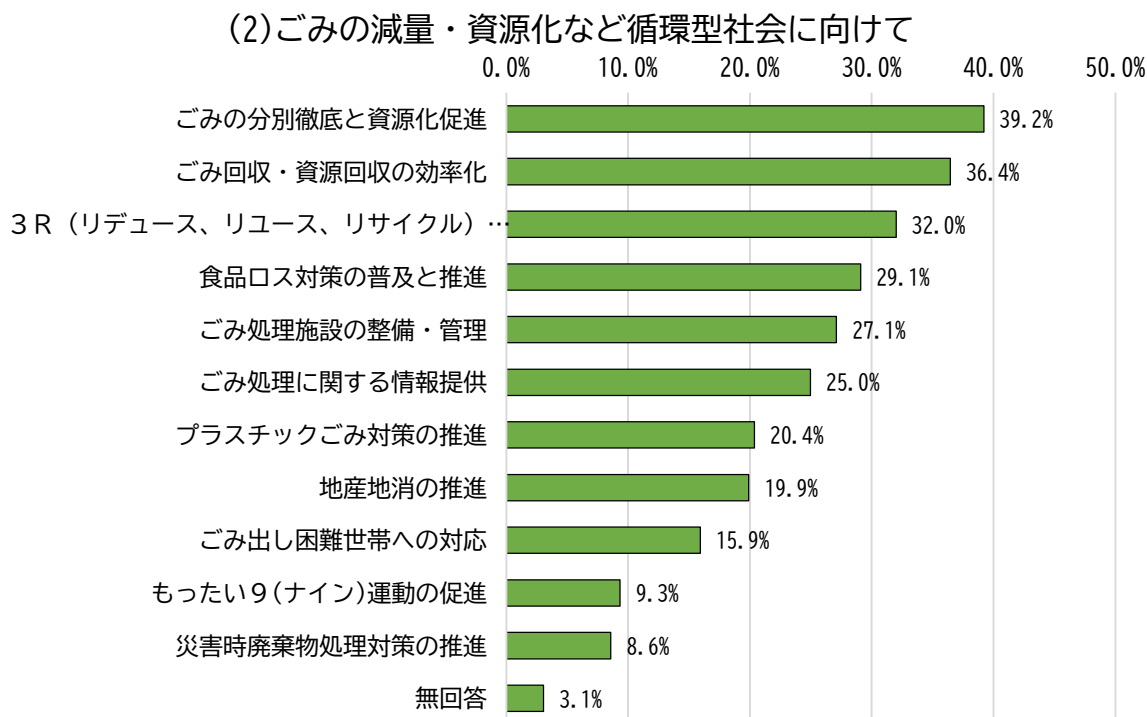


(2) ごみの減量・資源化など循環型社会の実現に向けて

ごみの減量・資源化など循環型社会の実現に向けて、市が重点的に進めるべきと考えている取組としては、「ごみの分別徹底と資源化促進」、「ごみ回収・資源回収の効率化」、「3R（リデュース、リユース、リサイクル）の普及と促進」がそれぞれ 30～40%と高くなっています。平成 23（2011）年度調査の「ごみ減量化、3R 推進」に比べ、重要性が高くなっています。

また、「食品ロス対策の普及と推進」も 30%近くと 4 番目に高くなっている反面、その促進運動である「もったい9（ナイン）運動の促進」については 10%未滿となっており、運動の普及が進んでいないことや、選択肢数が限られた中で取組の方向性が優先されたことなどが考えられます。

また、市民では「ごみ処理施設の整備・管理」が 5 番目の順位となっていますが、事業者では最も高くなっています。

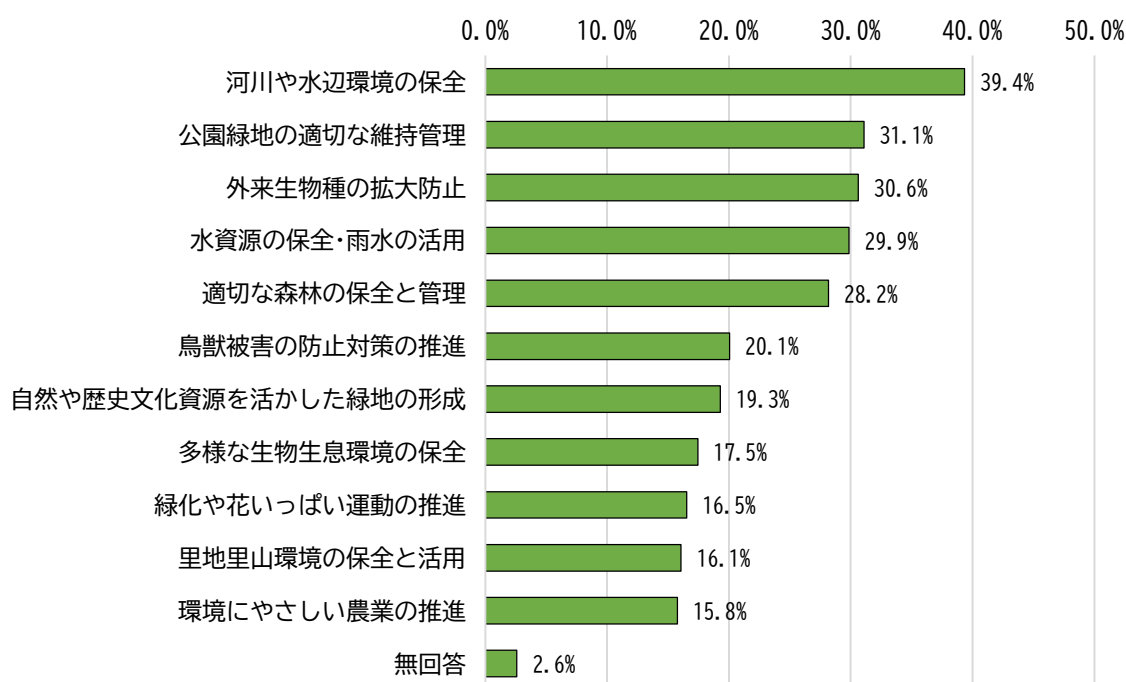


(3) 自然環境・生物多様性、森林・農地・河川機能、公園・緑地の保全と活用

自然環境や緑地の保全と活用に向けて重点的に進めるべき取組としては、「河川や水辺環境の保全」が40%近くと最も高く、次いで「公園緑地の適切な維持管理」や「外来生物種の拡大防止」「水資源の保全・雨水の活用」「水資源の保全・雨水の活用」がそれぞれ30%前後で続いています。

事業者では、「水資源の保全・雨水の活用」が2番目となっているほか、「外来生物種の拡大防止」の代わりに「鳥獣被害の防止対策推進」が加わっています。

(3)自然環境・生物多様性、森林・農地・河川機能、公園・緑地の保全と活用



「河川や水辺環境の保全」は70歳代以上で特に低いですが、年代が高くなるに従い高い傾向が見られ、60歳代で50%近くとなっています。「公園緑地の適切な維持管理」は30歳代以下で40%前後と高くなっているほか、「外来生物種の拡大防止」は10・20歳代や60歳代以上で高く、30～50歳代に比べ10ポイント近く高くなっていますが、「適切な森林の保全と管理」は30～50歳代で他の年代より10ポイント以上高くなっています。

また、地域によっても重点とあげられた取組が異なります。

<参考:地域別の回答割合が30%以上の項目と地域>

○:回答割合が30%以上の地域 ◎:回答割合が40%以上の地域	南河内 東部	南河内 西部	石橋 北部	石橋 南部	国分寺 東部	国分寺 西部
外来生物種の拡大防止	○	○	○			○
適切な森林の保全と管理			○		○	
河川や水辺環境の保全	○	◎	○	◎	◎	○
水資源の保全・雨水の活用	○	○		○		
公園緑地の適切な維持管理		○	○		◎	○

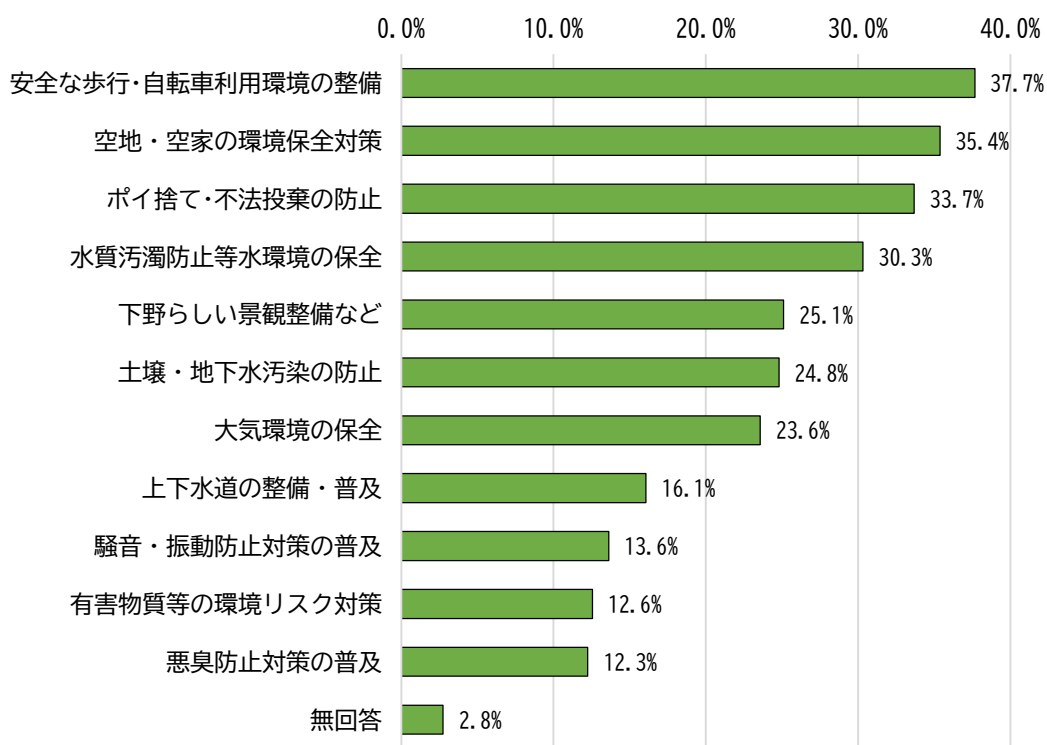
(4) 生活環境・快適環境の保全

生活環境・快適環境の保全に向けて重点的に進めるべき取組としては、「安全な歩行・自転車利用環境の整備」や「空地・空家の環境保全対策」「ポイ捨て・不法投棄の防止」「水質汚濁防止等水環境の保全」が30%以上となっています。

年代別には、「安全な歩行・自転車利用環境の整備」は子育て世帯の多い30～40歳代で40%以上と特に高くなっています。「空地・空家の環境保全対策」では50～60歳代で、また、10・20歳代では、騒音や悪臭対策は他の年代より高くなっていますが、水質汚濁防止等は他の年代より低くなっています。

地域別では、「安全な歩行・自転車利用環境の整備」は市街地がある国分寺東部、石橋北部、南河内西部で40%を超えています。「ポイ捨て・不法投棄の防止」が南河内東部で、「空地・空家の環境保全対策」では石橋南部でそれぞれ40%以上と特に高くなっています。

(4)生活環境・快適環境の保全



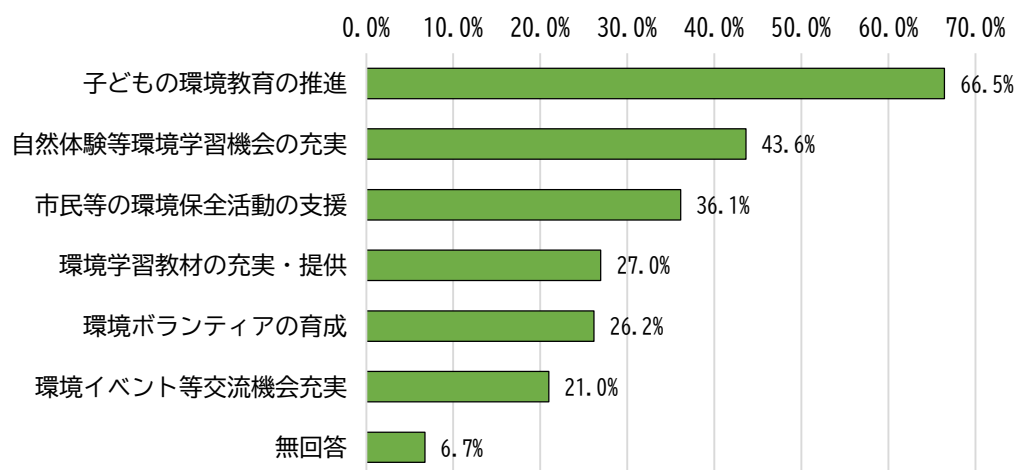
(5) 環境教育・環境学習、環境保全活動の推進に向けて

環境教育・環境学習、環境保全活動の推進に向けて重点的に進めるべき取組としては、「子どもの環境教育の推進」が67%と特に高くなっています。次いで「自然体験等環境学習機会の充実」や「市民等の環境保全活動の支援」が40%前後で続いています。

「子どもの環境教育の推進」では40歳代で84%と最も高く、次いで30歳代以下が75%前後と子育て世代で特に高くなっています。また、「自然体験等環境学習機会の充実」も30～40歳代で50%以上と他の年代より高く、こうした機会の充実や参加への支援等が望まれていると考えられます。

「市民等の環境保全活動への支援」では、50～60歳代で45%以上と特に高く、40歳代以下の世代と比べ20ポイント前後高くなっています。

(5)環境教育・環境学習、環境保全活動の推進に向けて



【主な自由記載意見（市民）の概要】

市民アンケートにおいて回答いただいた市民 653 人のうち、102 人の方から下野市の環境や環境基本計画などに関する数多くの提案や意見がありました。主な意見の紹介と概要を以下に示す。〔※個々の意見等については別添（参考資料）参照〕

1 全般的な内容

学習・教育・医療・交通共に住みやすい町と思います。しかし、地区によって交流は浅く、下野市としての一体感が無いと感じています。その地区によってわけるのであれば、それぞれの良さをもっと外にアピールし、平等な支援が必要だと思います。安心して住み続けられる下野市になって欲しいし協力していきたいと思っています。

私たちの身の回りには様々な環境問題が存在するが、環境問題に対して学校教育や社会教育を行うだけでは、不十分である。なぜなら教育を行ったとしても問題の解決へと一人一人が実施することは少ないからだ。私は一人一人が実施するために、その問題について原因を深く理解し、向き合い解決方法を考えていく必要があると思う。そのため、市は環境問題について深く理解し向き合うイベントを実施し解決への糸口を掴む為にも積極的に市民の意見を取り入れる必要があるのではないかと思う。

もう長い間環境問題が議論されているが、人は利便性や商業的な利益を求め常に環境を破壊し続けています。SDGs という取り組みにも一部企業や政治的な都合が囁かれ、文字通りに受け取ることが出来ません。なんだかんだ言ってもスーパーの棚には商品が充実しているしパッケージのほとんどはプラスチックで使い捨てのような物が次々に開発されている現状で危機感を持ってという方が難しいと思います。本当の危機が目に見えて分かる頃には末期状態で取り戻す事は困難でしょう。その時ですら「これは一時的で、また昔に戻る」と思う人も少なくないかも知れません。大事なことは私達一人一人が意識的に真実を見ようとする姿勢であり、それを促すのが市役所の皆様のお役目だと思います。小さな町からこれからの地球に出来る事を行動に移せる市民となれるよう忖度のない正しい情報、多角的な提案、議論できる場所や教育等々の多くを期待しております。今、本当に変わらなければいけない時が来ています。

2 気候変動・地球温暖化に関する内容

地球温暖化対策が急務だと思います。エネルギーの問題も地域で何か出来ればと思います。再生可能エネルギーの取り組みを早め、二酸化炭素の排出を少なくしたり、カーボンニュートラルを進めたりすることが必要です。是非市においても先進的に取り組んで頂きたいと思います。

太陽光発電パネル設置による森や林を切り拓いている為そこに生息する動物たちの事を考えて欲しいです。

●他（3件）

3 ごみの減量・資源化等に関する内容

昭和に入って化学工場が拡大して第5素材のプラスチックが生活資材に加わり加工性の低温化と軽量の特性であり、従来の土器、鉄、ガラス、木材に変わりあらゆるものがプラスチックに置き換えられた。現在では原料が石油でない合成品も出てきたり、リサイクル SDGs の為の生分解性樹脂も出てきてる。又、リサイクル率も向上して衣料や構造体へのリサイクルが行われている。今からでは遅いのかもしれないが利用者、消費者に使用方法やリサイクルシステムを確立してから商品化することを考えるべきであった。化学の開発は今も進んでおり新しいプラスチックはどんどん出来てきます。商品化の時に最終処分が行われるように考えて行う必要がある。又、学校教育・社会教育でプラスチックのことをもっと勉強すべきである。法律はトラブルが発生してから対応・処置の為に出来るので商品として販売される時に回収・リサイクル・別製品へのサイクルを考えて行くべきである。海上に入ったマイクロプラスチックになってからでは回収が出来ない。新素材のプラスチックが公害のもととなってしまった。

不用品リサイクルの情報ですが、譲りたい、譲って欲しいと、それぞれが本人同士で話し合いでありますが、他の市や県でやっているように収集した物をきれいにして金額をつけて施設で買っていただくことは出来ないですか。ゴミとして減量することもでき、欲しい人にはリサイクルの物として使うこともできるし、ゴミ処理の費用の増加もふせぐことが出来るので車の小型化にともなって大型ごみをゴミステーションまで持っていくことが出来ません。有料でいいので集配することは出来ないでしょうか以前は家まで来てくれていたのですが。

現在燃えるゴミ週2回行っておりますが、生ごみについて、先日ラジオ聞いて感じた事ですが、家庭で出る生ごみの活用について空き地や畑などに公害にならないように気を付けて土に帰ると言う事がとても大切とラジオ放送を聞いて、私も少しでも実行しようと思い取り組みを始めました。すると燃えるゴミが軽くなり、工夫すればいろいろと役立つ事を感じました。

●他（10件）

4 ごみ出し・ゴミステーションに関する内容

身近な問題としてゴミステーションの整備があります。高齢化にともないゴミの分別、ゴミ出しが困難な世帯が増えていると思われれます。高齢化は止める事が出来ません。ゴミステーションをカラスや野良猫に荒らされる心配がないように大きさを合わせたフェンスネットで囲うように作り直し頂けたら分別が困難な方や出す日程を間違った時でも荒れる事が無くきれいな景観が守れるのではないかと考えております。自治会などでは、ゴミ当番などを持ち回りで実施して清掃をしています。管理はするので整備をお願いしたいです。

●他（6件）

5 ごみの散乱・清掃等に関する内容

私の家のそばに「小山用水」があり、とても汚い（特に冬は流れているが少量）結構幅広い川です。ゴミを捨てる方も居て（ペットボトル等）小学校等は水について学ぶ（川について）機会があり、大人のモラルの低さに悲しみを感じています。子は親・大人のすることを見て、同様に成長して行きます。公園もしかり、いつも食べかす・ゴミの袋が落ちています。自分が持参した物は全部自宅へ持ち帰れる様にビニール袋をきちんと畳んでお子さんに持たせるとか、ゴミ箱は公園内に設置されているので指定されているゴミ箱に捨てる「モラル」を守る様小さな頃からきちんと、自分の出したゴミはどうすべきかを話し合っ欲しい。誰でもきれいな公園は大好きなはず。家に帰った子供に「ゴミは何処に捨てたの？」と優しく聞いてあげてきちんと自宅に持ち帰ったり、ゴミ箱に捨てたか？出来たらオーバー位にほめてあげて欲しいです。17の目標がある。SDGS 運動に期待しどうしたら守れるかも話し合いたい。

●他（11件）

6 生活環境（空地・空き家、雑草等）に関する内容

空き地空き家が多く空き地には不法投棄の所があります。私有地なので法的問題はありませんが、何とか改善に取り組んで頂きたい。

●他（7件）

7 生活環境（大気・水環境、騒音等、路上喫煙・ペット、植栽等）に関する内容

春先乾燥した農地からの砂ぼこりがひどい。アブラナやレンゲ草を植える等対策を講じて欲しい。

駅を始めとした公共施設周辺は禁煙にしてください。匂いなので不快に感じます。よろしくをお願いします。

●他（12件）

8 生活環境（交通、公園等）に関する内容

南河内東部地域は交通事情が非常に悪い。自家用車がないと、何処にも行く事が出来ない。デマンド交通も時間制限があり、通勤・通学（高校等）に利用することが出来ないので、もう少し利用時間を検討して欲しい。

国分寺にもきれいで子供達が喜び公園や施設を作って欲しい。日陰が有る公園があるといいと思います。

●他（17件）

9 自然環境・緑地。地下水、景観等に関する内容

緑豊かな下野市。バランスの良い地域的发展を期待しています。

公共の為に緑をもっと増やす。伐採を多くされている。エコに関して補助をする。スーパー等植樹の推進。

●他（10件）

10 その他（開発・土地利用等）に関する内容

企業誘致（環境技術関係）鉄道輸送についてターミナルがある為道路拡張等物流ハブたりえる都市計画を構想できる人材の確保、目立つランドマークがないためそれ自体を観光資源化出来る広報。

●他（10件）

11 アンケート等に関する内容

今回の市民アンケート調査票はとても有難い事です。いざ街の皆さんに言いたいこともどこへどの様にして話して良いか、なかなか出来ないことですが、この様に書面で訴えることはとても大切なことで、市民にとっても嬉しいチャンスです。

アンケートを記入するにあたり、下野市の HP、環境課の欄を見ましたが、今ひとつなにを説明したいのか分からなかった。多分そういうことも含めての今日のアンケートと理解した。これから策定する計画では明白なビジョンを求めたい。持続可能な地域社会の形式には、高齢化対策と地域の活性化が不可欠と思われる。下野市には壬生町のような企業誘致も起爆剤として必要な気がする。

●他（6件）

2. 事業者アンケート

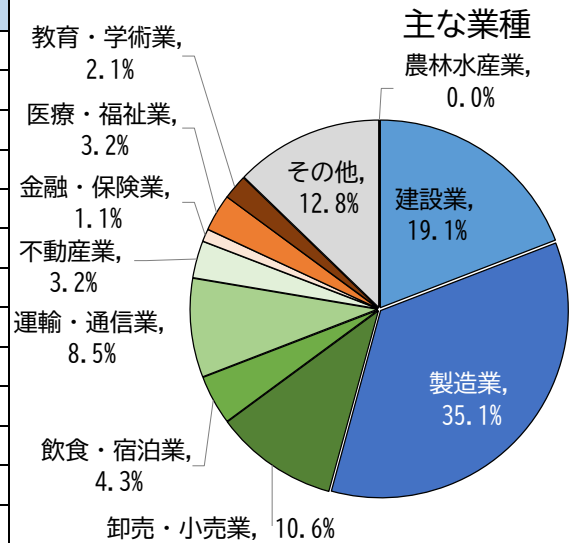
【問1】 回答事業者の属性

① 主な業種

回答事業所の業種は製造業が3分の1を占め、次いで建設業で、第2次産業がほぼ半数を占めています。

農林水産業からの回答はなく、残りの半数近くが第3次産業となっています。

選択肢	回答数	割合(%)
農林水産業	0	0.0%
建設業	18	19.1%
製造業	33	35.1%
卸売・小売業	10	10.6%
飲食・宿泊業	4	4.3%
運輸・通信業	8	8.5%
不動産業	3	3.2%
金融・保険業	1	1.1%
医療・福祉業	3	3.2%
教育・学術業	2	2.1%
その他	12	12.8%
無回答	0	0.0%
合計	94	100.0%



[その他(記載内容)]

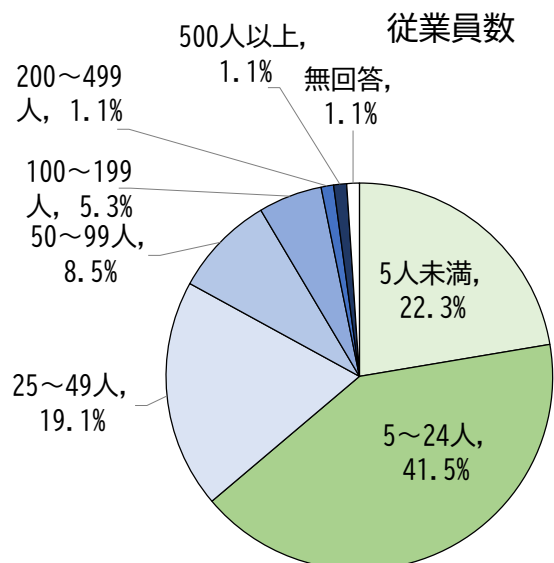
サービス業(デザイン業含む)(4)、自動車整備、分解整備業(2)、美容業(1)

② 従業員数(非正規雇用含)

回答事業所の従業員数は5人~24人が42%と最も多く、25人未満の事業所が6割以上を占めています。

建設業及び卸売・小売業は25人未満が7~8割で5人未満も2~3割となっています。製造業では25人未満が約4割、25~49人が3割強となっています。

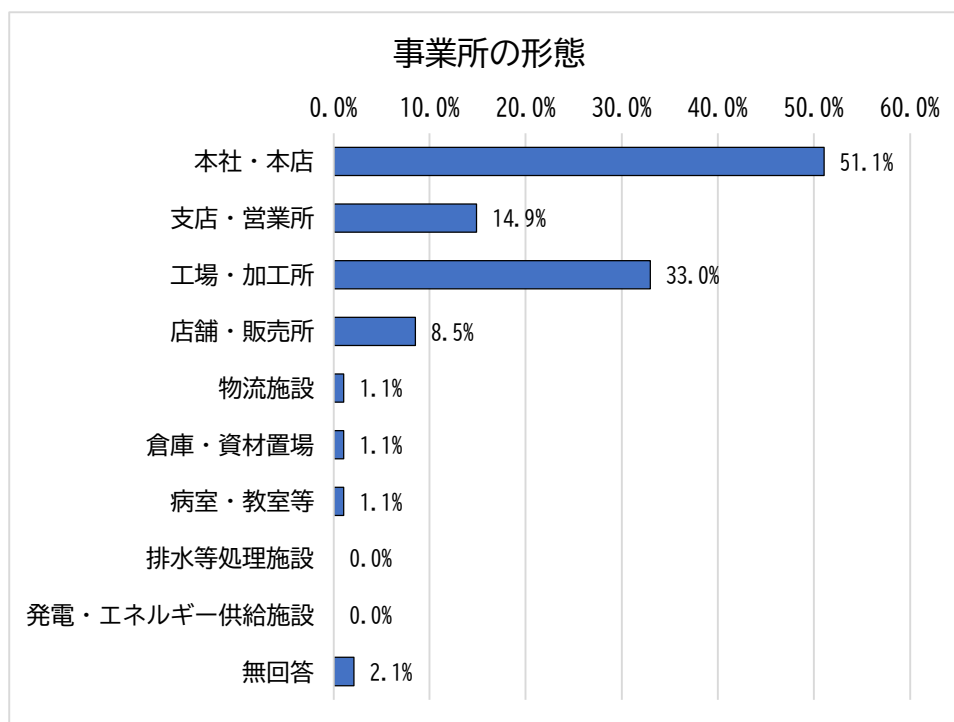
選択肢	回答数	割合(%)
5人未満	21	22.3%
5~24人	39	41.5%
25~49人	18	19.1%
50~99人	8	8.5%
100~199人	5	5.3%
200~499人	1	1.1%
500人以上	1	1.1%
無回答	1	1.1%
合計	94	100.0%



③ 事業所の形態

回答事業所の事業所の形態は、本社・本店が約 5 割、支店・営業所が 15% となっています。建設業の 8 割以上が本社・本店となっており、製造業では本社・本店が 3 割で、工場・加工所を有する製造業が 7 割以上となっています。

また、店舗・販売所を有する事業所は 15% となっています。



選択肢	回答数	割合 (%)
本社・本店	48	51.1%
支店・営業所	14	14.9%
工場・加工所	31	33.0%
店舗・販売所	8	8.5%
物流施設	1	1.1%
倉庫・資材置場	1	1.1%
病室・教室等	1	1.1%
排水等処理施設	0	0.0%
発電・エネルギー供給施設	0	0.0%
無回答	2	2.1%
合計	94	

[その他 (記載内容)]
 自宅・作業場 (別場所)
 事務所

<参考>業種別の従業員数(空欄は回答なし)

業種	従業員数 5人未 満	5~24 人	25~49 人	50~99 人	100~ 199人	200~ 499人	500人 以上	無回答	回答 数
建設業	22.2%	61.1%	11.1%	5.6%					18
製造業	3.0%	36.4%	33.3%	12.1%	9.1%	3.0%	3.0%		33
卸売・小売業	30.0%	40.0%	10.0%		20.0%				10
飲食・宿泊業	50.0%	25.0%						25.0%	4
運輸・通信業		62.5%	12.5%	25.0%					8
不動産業	33.3%	66.7%							3
金融・保険業	100.0%								1
医療・福祉業	66.7%		33.3%						3
教育・学術業	50.0%			50.0%					2
その他	50.0%	33.3%	16.7%						12

<参考>業種別の事業素形態の助教(複数選択、空欄は回答なし)

業種	事業所形態 本社・ 本店	支店・ 営業所	工場・ 加工所	店舗・ 販売所	物流施 設	倉庫・ 資材置 場	病室・ 教室等	発電・ 工ネル ギー供 給施設	回答 数
建設業	83.3%	5.6%	16.7%					5.6%	18
製造業	30.3%	18.2%	72.7%						33
卸売・小売業	30.0%	20.0%	10.0%	30.0%	10.0%				10
飲食・宿泊業	25.0%			75.0%					4
運輸・通信業	62.5%	37.5%							8
不動産業	100.0%					33.3%			3
金融・保険業		100.0%							1
医療・福祉業	66.7%						33.3%		3
教育・学術業	100.0%								2
その他	58.3%	8.3%	25.0%	16.7%				8.3%	12

【問 2】 事業所から見た下野市の環境について

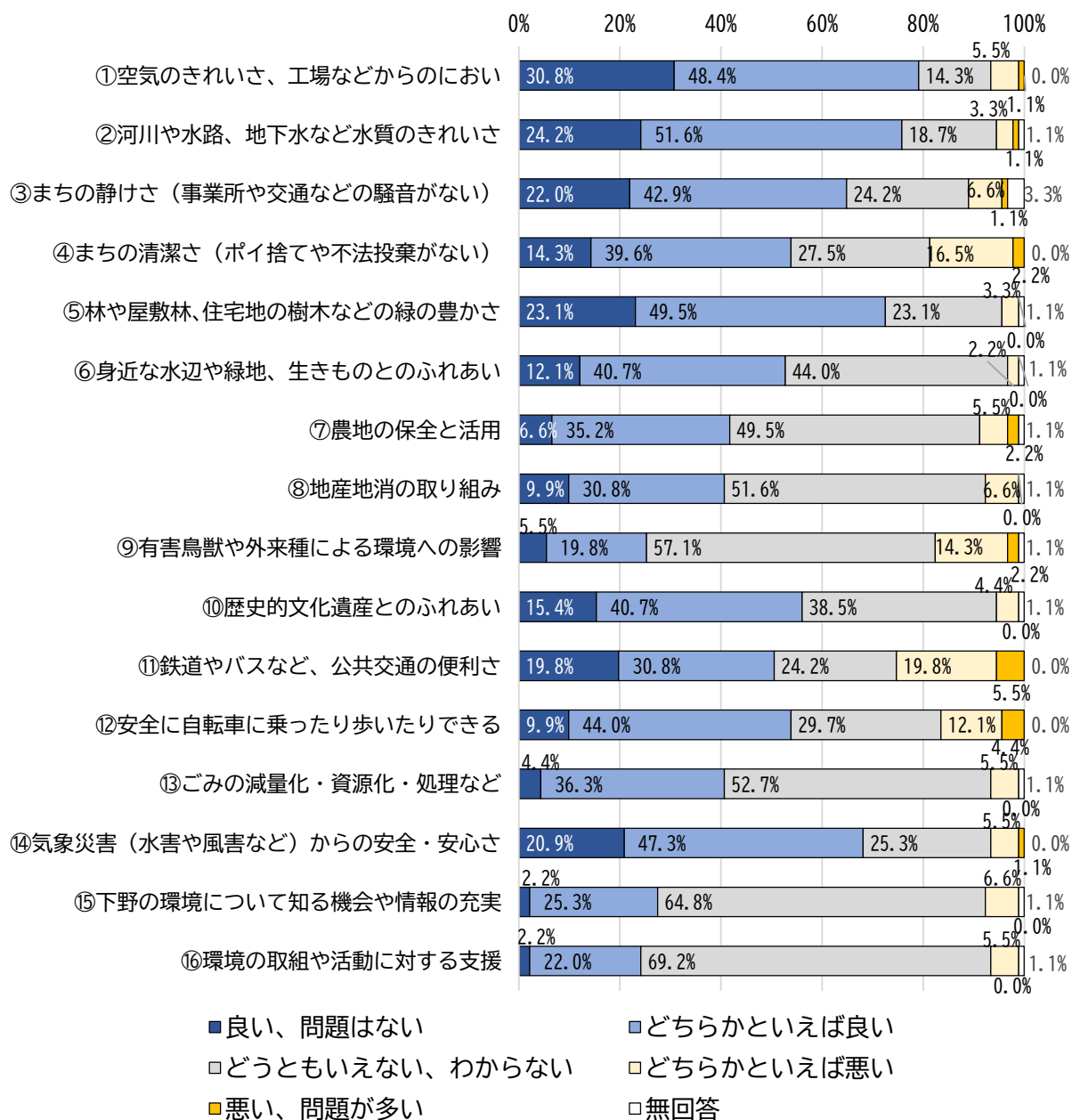
下野市の環境で事業者が良い（「良い、問題ない」と「どちらかといえば良い」の計）と感じている内容は、次の3項目でそれぞれ7割以上となっています。

- ①空気のきれいさ、工場などからのにおい（79%）
- ②河川や水路、地下水など水質のきれいさ（75%）
- ⑤林や屋敷林、住宅地の樹木などの緑の豊かさ（73%）

また、良いと感じている割合が低いのは、次の3項目でそれぞれ3割以下となっていますが、「どうともいえない、わからない」も6~7割前後となっています。

- ⑩環境の取組や活動に対する支援（24%）
- ⑨有害鳥獣や外来種による環境への影響（25%）
- ⑮下野の環境について知る機会や情報の充実（28%）

下野市の環境について

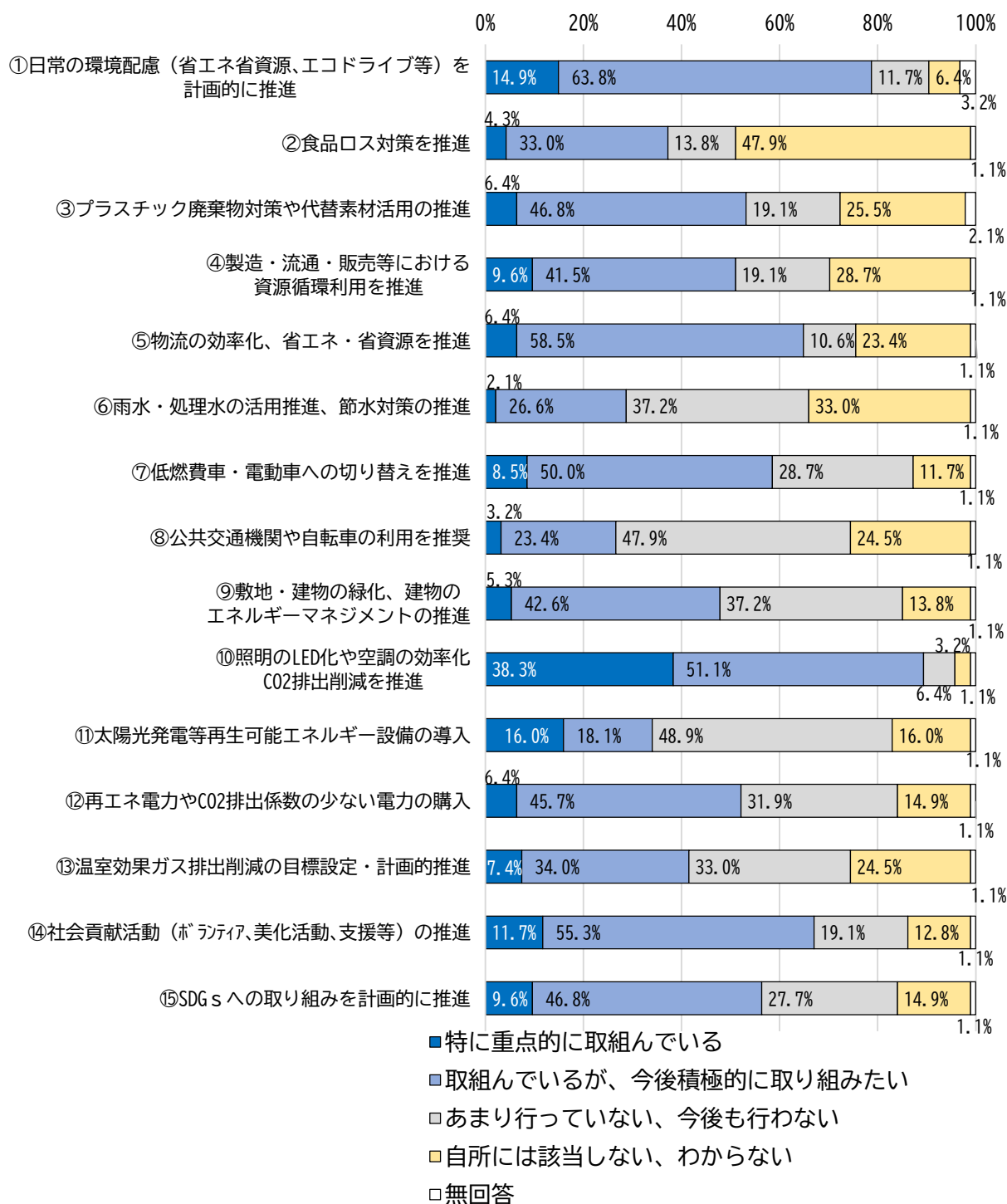


【問3】事業所で進めている環境対策について

事業所の環境対策としては、「⑩照明のLED化や空調の効率化・CO₂排出削減」は4割弱の事業所が「特に重点的に取り組んでいる」としています。また、「取り組んでいる、今後積極的に取り組みたい」も合わせると約9割となっています。

また、「①日常の環境配慮（省エネ省資源、エコドライブ等）を計画的に推進」も8割弱と、多くの項目で50%となっており、対策への取組が見られます。

事業所の環境対策について

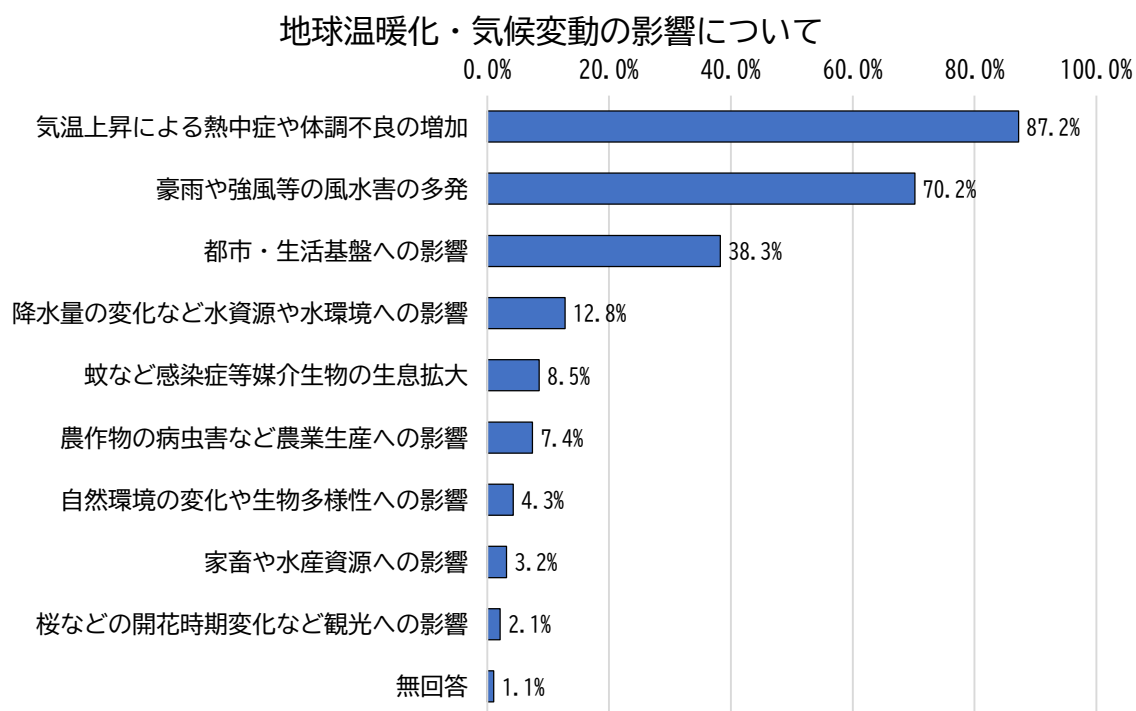


環境対策への取組が低い項目は次の項目で、「あまり行っていない、今後も行わない」や「自所には該当しない、わからない」も高くなっており、事業所の業種や規模等による違いも考えられます。

- ⑧公共交通機関や自転車の利用を推奨（26%）
- ⑥雨水・処理水の活用推進、節水対策の推進（30%）
- ⑪太陽光発電等再生可能エネルギー設備の導入（34%）
- ②食品ロス対策を推進（37%）

【問4】事業活動に関連する地球温暖化・気候変動の影響について

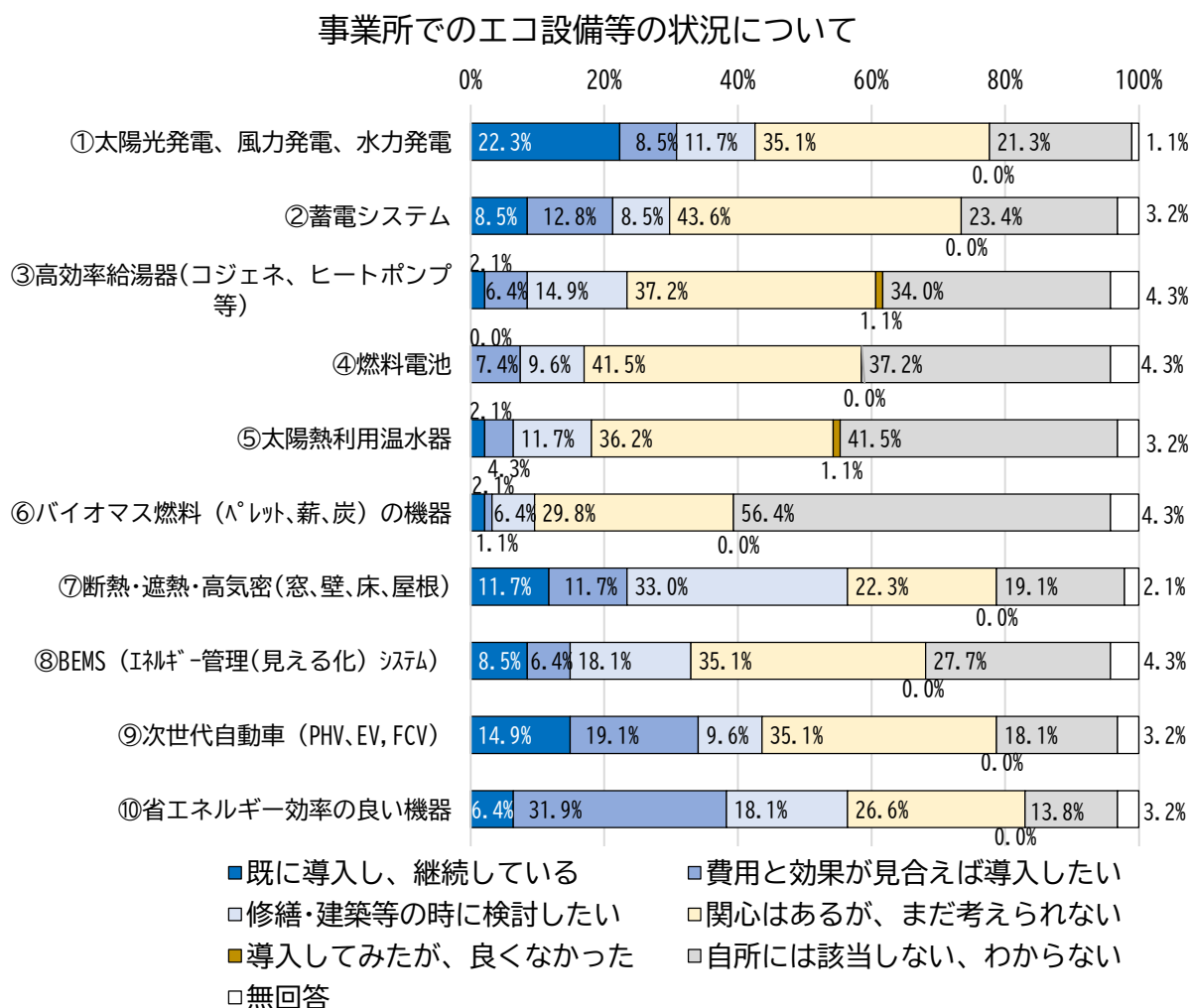
事業所の約9割が気候変動に伴う事業活動への影響として、「気温上昇による熱中症や体調不良の増加」をあげています。次いで、「豪雨や強風等の風水害の多発」が7割以上と気候変動の影響を懸念しています。市民とは順番は異なりますが、同様に安全・安心、健康の確保が重要と考えているといえます。



【問5】事業所でのエコ設備等の導入状況について

事業所での再エネや省エネ設備等の導入状況としては、22%の事業所で「①太陽光発電、風力発電、水力発電」を導入し、継続していると最も高くなっています。回答数が10事業所以上の業種別では建設業の3分の1が導入しています。また、製造業と卸売・小売業では4割前後が「関心はあるが、まだ考えられない」となっています。

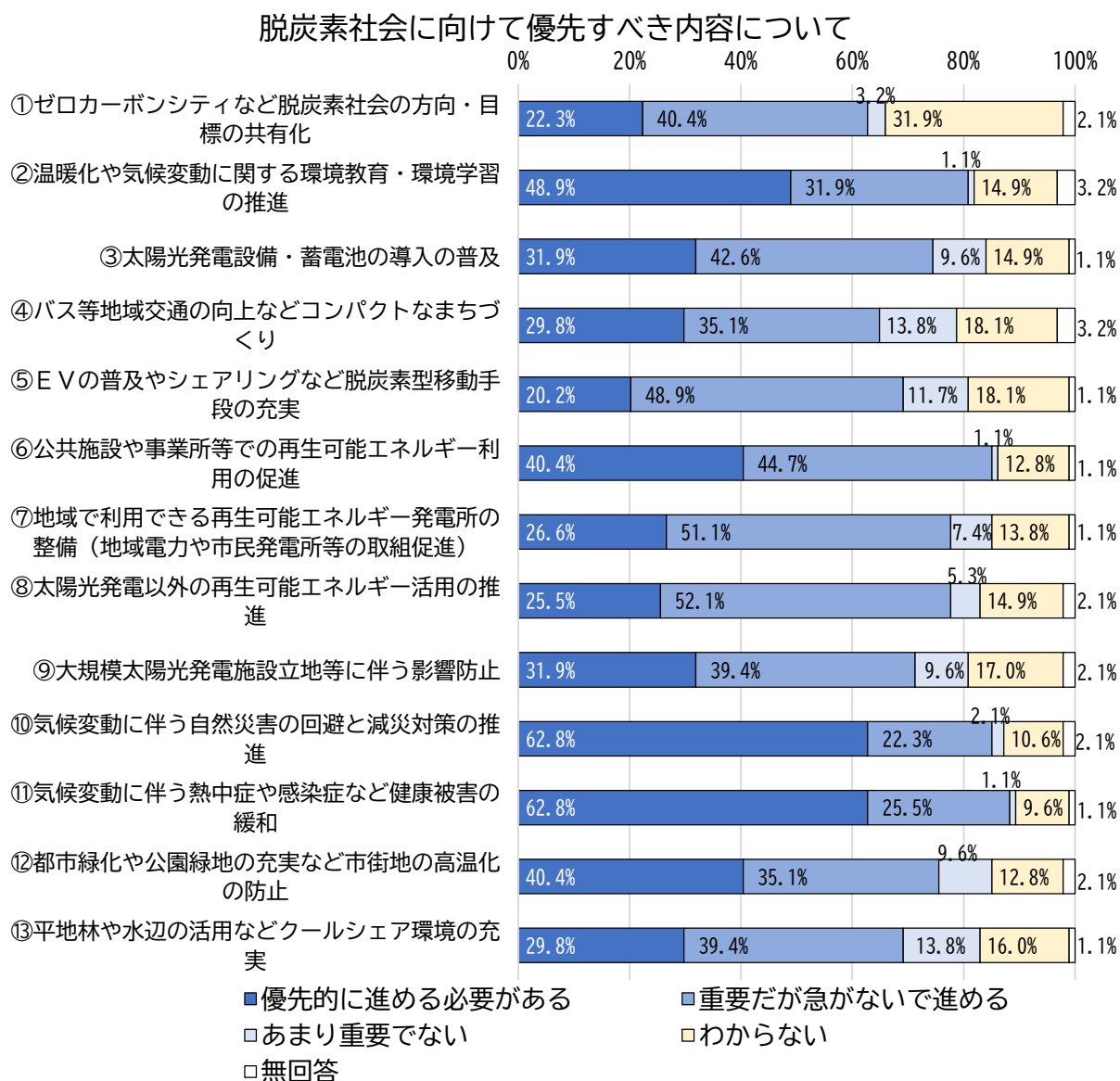
次いで「⑨次世代自動車（PHV、EV、FCV）」が15%、「⑧BEMS（I社キ-管理（見える化）システム）」が12%となっています。全体的に「関心はあるが、まだ考えられない」や「自所には該当しない、わからない」の回答も多く見られます。



【問6】 脱炭素社会の実現に向け、優先すべき内容

カーボンニュートラル（脱炭素社会）の実現に向けて優先して進める必要がある取組としては、市民と同様に、気候変動の影響による自然災害の回避と減災、熱中症などの健康被害の防止 6 割以上、次いで温暖化や気候変動に関する環境教育・環境学習の推進が5割弱となっています。

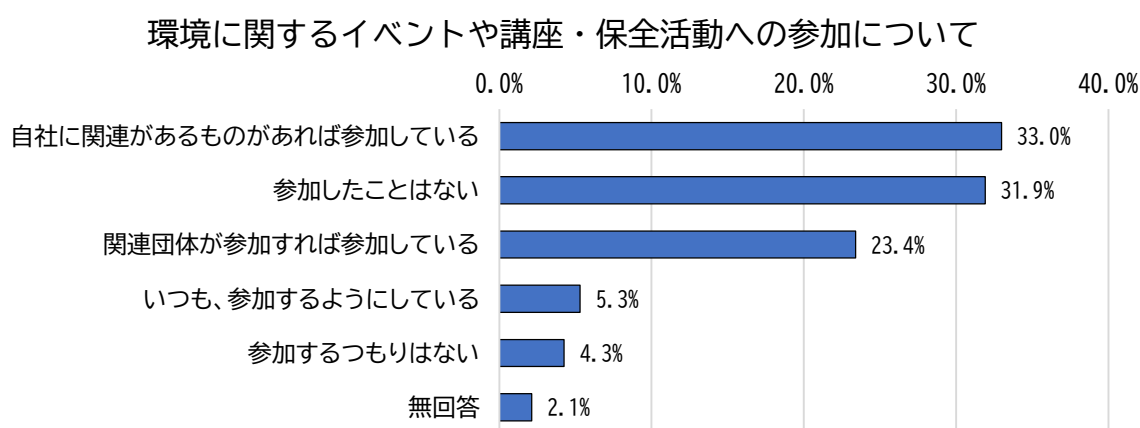
「優先的に進める必要がある」と「重要だが急がないで進める」を合わせた割合でも、市民と同様に、各項目とも 60%以上が重要と考えており、これらの取組を総合的に進めていくことが期待されています。しかし、多くの項目では「重要だが急がないで進める」との考えも3.5割～5割と多くなっています。



【問7】環境に関するイベントや講座、保全活動への参加について

(1) 環境保全活動への参加について

環境に関するイベントや講座、環境保全活動に「参加したことがない」が3割強と、市民より低い割合となっております。特に、「自社に関連があるものがあれば参加している」が3割以上、「関連団体が参加すれば参加している」が2割以上あり、全体としては参加している傾向が見られます。



(2) 参加してみたいイベントや講座、活動

地域関連は出来るだけ参加する。

Web 参加型の講座。

E V車体験。

【問8】 今後、市が重点的に進めるべき取り組みについて

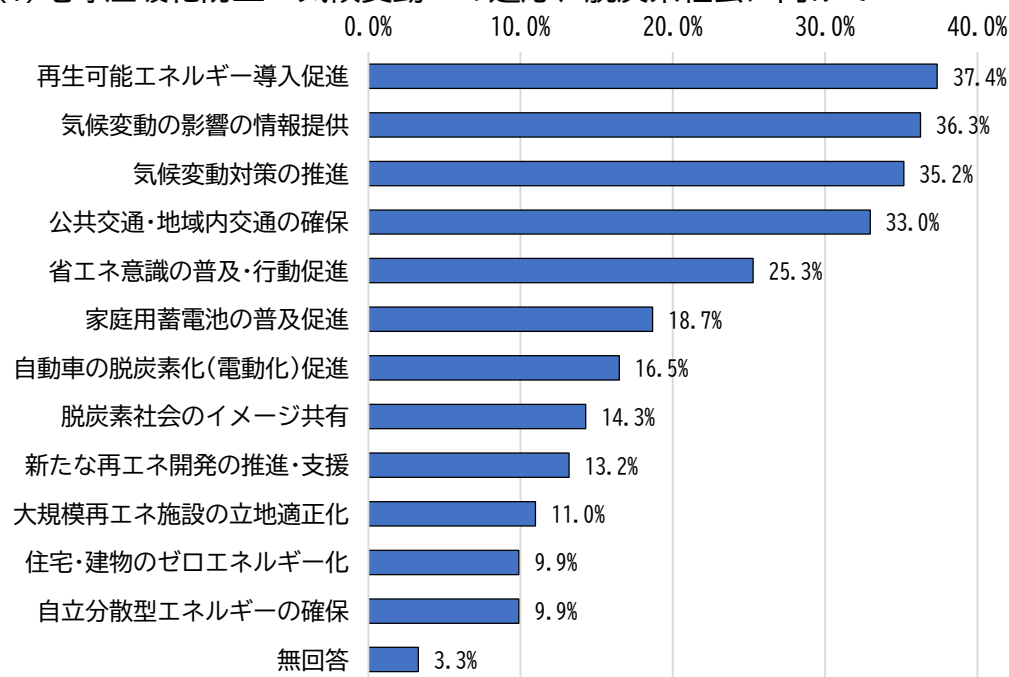
(1) 地球温暖化防止・気候変動への適応、脱炭素社会の実現に向けて

地球温暖化防止・気候変動への適応に向けて、市が重点的に進めるべきと考えている取組は、気候変動の影響に関する情報の提供や対策、再生可能エネルギー導入促進、公共交通・地域内交通の確保がそれぞれ30%以上と高くなっています。

市民と同じような内容が上位になっていますが、市民と比べ「再生可能エネルギー導入促進」の順位が高く、「公共交通・地域内交通の確保」の順位が低くなっています。

平成23(2011)年度調査では「洪水や地震など自然災害からの安全性」や「省エネ対策や自然エネルギーの有効利用」「バス等公共交通の利便性の向上」と、今回と同じような項目が上位となっています。

(1)地球温暖化防止・気候変動への適応、脱炭素社会に向けて



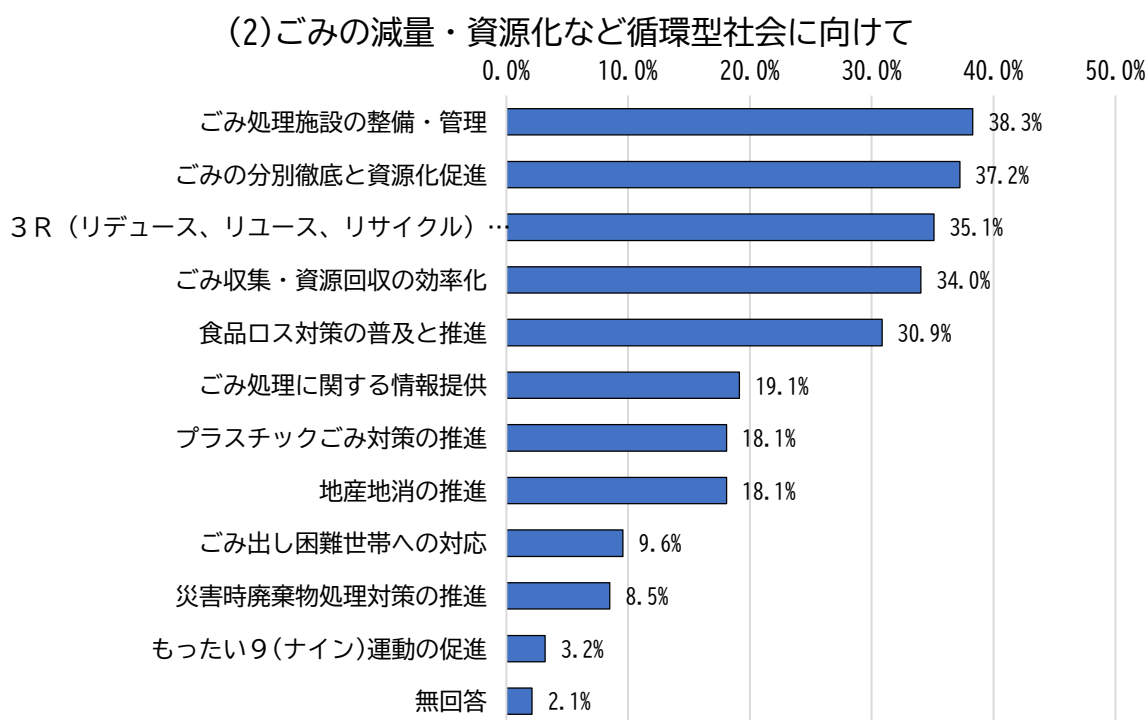
回答数が10事業所以上の業種別での上位3項目は次のようになっています。

業種	1位	2位	3位
建設業	再生可能エネルギー導入促進	気候変動の影響の情報提供	気候変動対策の推進
製造業	気候変動対策の推進	再生可能エネルギー導入促進	気候変動の影響の情報提供 省エネ意識の普及・行動促進 家庭用蓄電池の普及促進 自動車の脱炭素化促進
卸売・小売業	公共交通・地域内交通の確保	気候変動対策の推進	気候変動の影響の情報提供 脱炭素社会のイメージ共有 再生可能エネルギー導入促進

(2) ごみの減量・資源化など循環型社会の実現に向けて

ごみの減量・資源化など循環型社会の実現に向けて、市が重点的に進めるべきと考えている取組としては、「ごみ処理施設の整備・管理」が高く、次いで、「ごみの分別徹底と資源化促進」、「3R（リデュース、リユース、リサイクル）の普及と促進」、「ごみ回収・資源回収の効率化」がそれぞれ30%以上と、市民と同じ項目となっています。

また、「食品ロス対策の普及と推進」も30%近くと5番目に高くなっている反面、その促進運動である「もったい9(ナイン)運動の促進」については3%と最も低くなっています。



回答数が10事業所以上の業種別での上位3項目は次のようになっています。

業種	1位	2位	3位
建設業	3Rの普及と促進	ごみの分別徹底と資源化促進 ごみ処理施設の整備・管理	
製造業	ごみの分別徹底と資源化促進	3Rの普及と促進 ごみ処理施設の整備・管理	
卸売・小売業	ごみの分別徹底と資源化促進 ごみ処理施設の整備・管理	3Rの普及と促進 プラスチックごみ対策の推進	

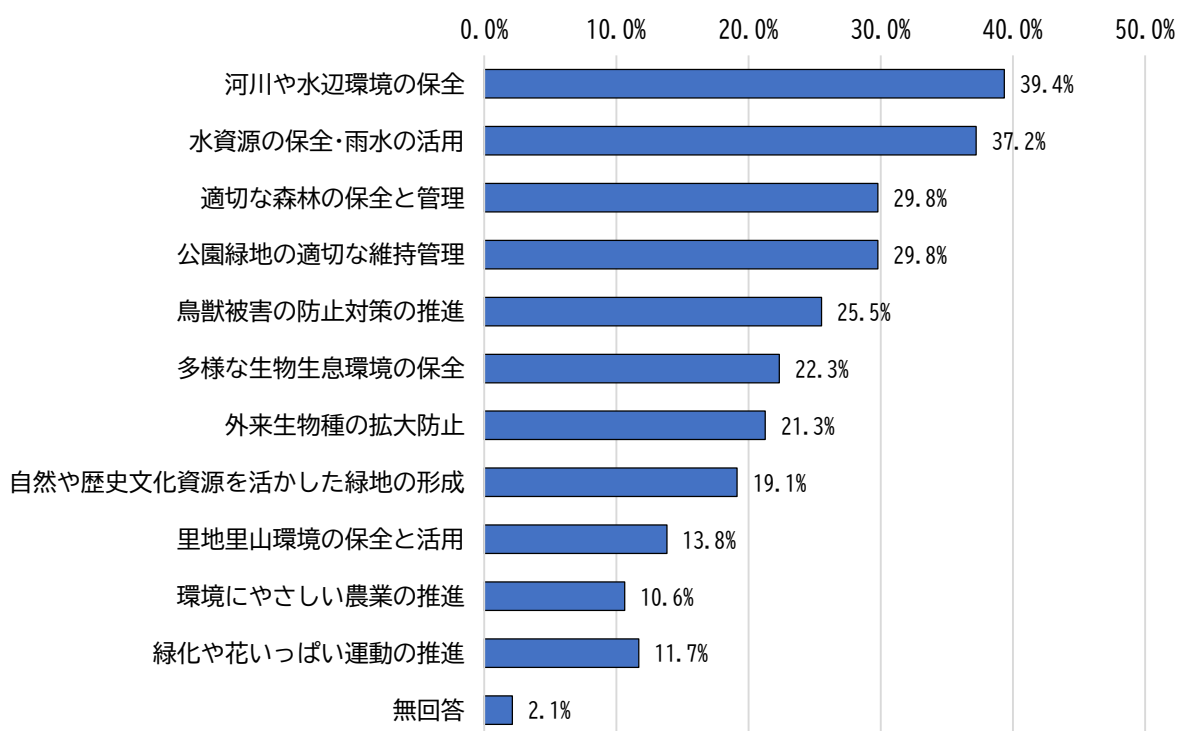
(3) 自然環境・生物多様性、森林・農地・河川機能、公園・緑地の保全と活用

自然環境や緑地の保全と活用に向けて重点的に進めるべき取組としては、市民と同様に「河川や水辺環境の保全」が 40%近くと最も高くなっています。また「水資源の保全・雨水の活用」が 37%と上位に位置づけられています。

次いで、「適切な森林の保全と管理」「公園緑地の適切な維持管理」や「鳥獣被害の防止対策の推進」などが上位となっています。

市民と比べ、「水資源の保全・雨水の活用」や「鳥獣被害の防止対策推進」が加わっています。

(3)自然環境・生物多様性、森林・農地・河川機能、公園・緑地の保全と活用



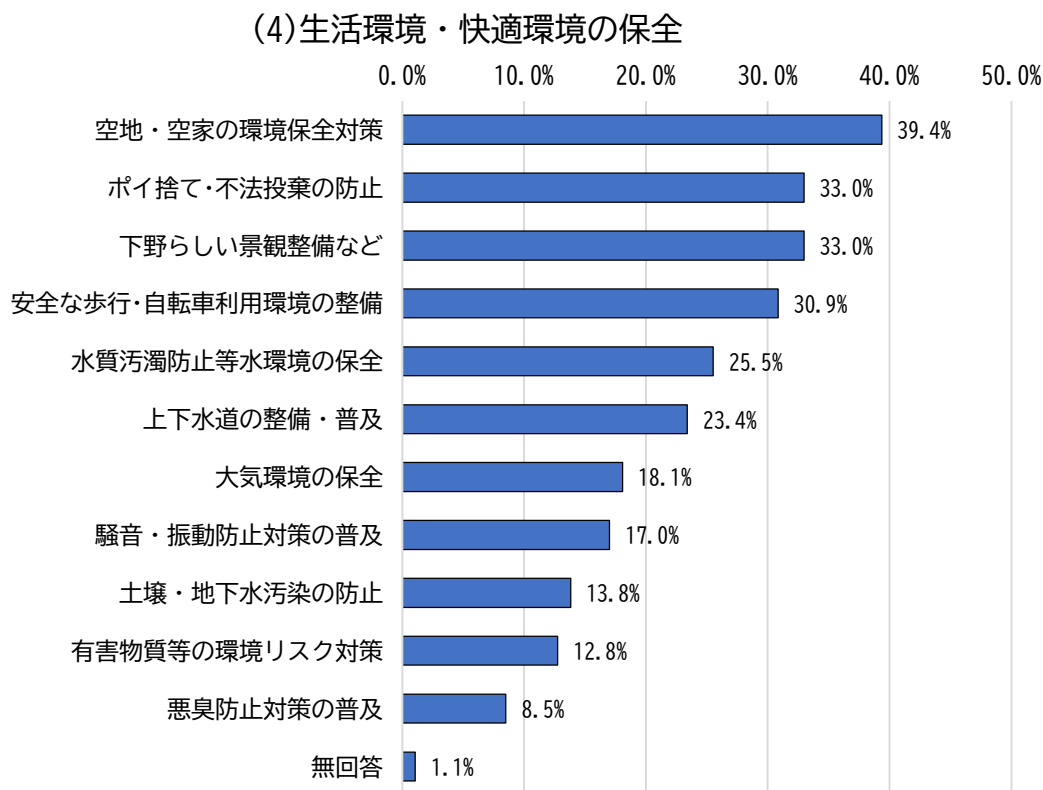
回答数が 10 事業所以上の業種別での上位 3 項目は次のようになっています。

業種	1 位	2 位	3 位
建設業	公園緑地の適切な維持管理	河川や水辺環境の保全	水資源の保全・雨水の活用
製造業	適切な森林の保全と管理		
卸売・小売業	河川や水辺環境の保全 水資源の保全・雨水の活用	※左記項目のみ 70%と高く、その他項目への回答少ない	

(4) 生活環境・快適環境の保全

生活環境・快適環境の保全に向けて重点的に進めるべき取組としては、4割近くの事業所が「空地・空家の環境保全対策」をあげています。次いで、「ポイ捨て・不法投棄の防止」や「下野らしい景観整備」「安全な歩行・自転車利用環境の整備」が3割以上となっています。

順位は異なりますが、市民と同じ項目が上位となっています。



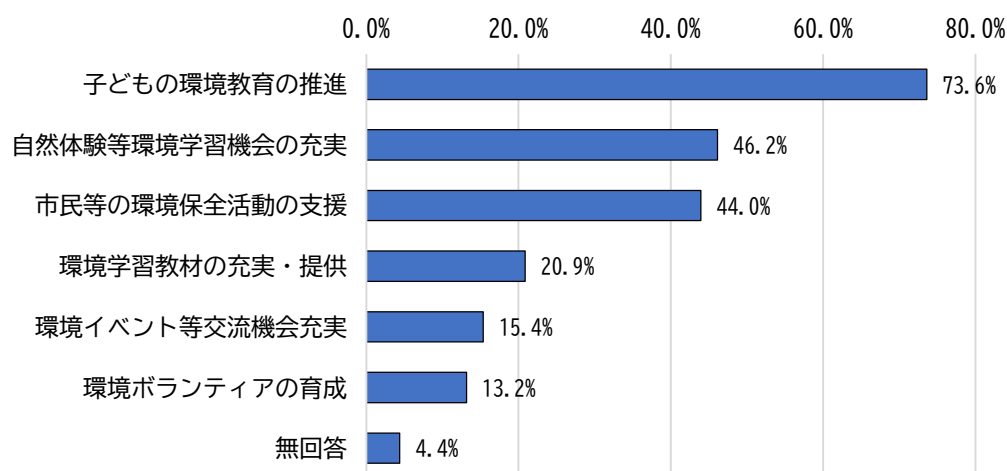
回答数が10事業所以上の業種別での上位3項目は次のようになっています。

業種	1位	2位	3位
建設業	空地・空家の環境保全対策	下野らしい景観整備	安全な歩行・自転車利用環境の整備
製造業	ポイ捨て・不法投棄の防止	下野らしい景観整備 上下水道の整備・普及	空地・空家の環境保全対策
卸売・小売業	空地・空家の環境保全対策	安全な歩行・自転車利用環境の整備	ポイ捨て・不法投棄の防止 水質汚濁防止等水環境の保全

(5) 環境教育・環境学習、環境保全活動の推進に向けて

本設問の回答傾向は、市民とほぼ同様になっており、環境教育・環境学習、環境保全活動の推進に向けて重点的に進めるべき取組としては、「子どもの環境教育の推進」が74%と特に高く、次いで「自然体験等環境学習機会の充実」や「市民等の環境保全活動の支援」が40%前後で続いています。

(5)環境教育・環境学習、環境保全活動の推進に向けて



回答数が10事業所以上の業種別での上位3項目は次のようになっています。

業種	1位	2位	3位
建設業	子どもの環境教育の推進	市民等の環境保全活動の支援	市民等の環境保全活動の支援
製造業		自然体験等環境学習機会の充実	
卸売・小売業		自然体験等環境学習機会の充実	環境学習教材の充実・提供
		市民等の環境保全活動の支援	

【自由記載意見の概要-事業者】

回答をいただいた94事業所のうち、7事業所から自由意見記載欄に意見等をいただきました。

主な内容は、人材育成に向けた文化的芸術的な環境の整備や市政への市民意見の反映などの全体的な内容をはじめ、プラスチックごみやごみ回収、上下水道、交通安全、道路・電線上への樹木の枝の張り出し等の問題、環境配慮行動などについてでした。

〔※個々の意見等については別添（参考資料）参照〕

3. 小中学生アンケート

アンケートの調査対象

小学5年生及び義務教育学校5年生（以下、「小学生」という。）

中学2年生及び義務教育学校8年生（以下、「中学生」という。）

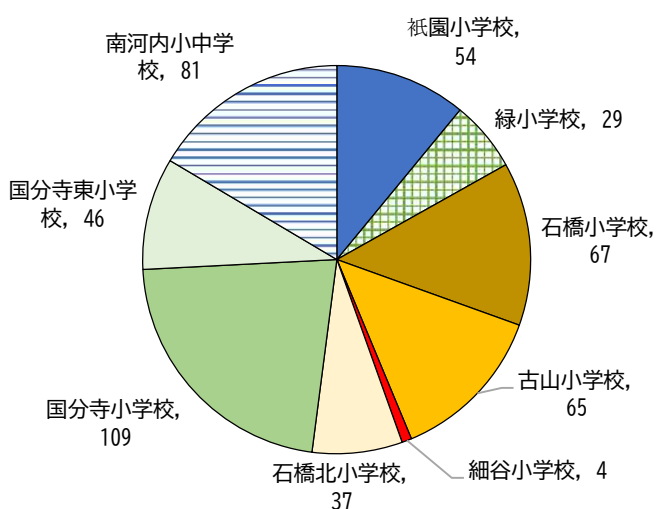
【問1】あなたのこと

(1) 通っている学校

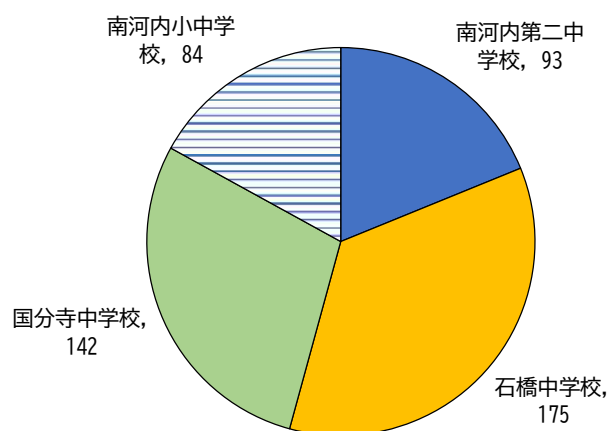
小学生と中学生の回答者数はほぼ同数でした。学校別の回答者数は以下のようになっています。

学校	小学校5年生 義務教育学校 5年生	中学校2年生 義務教育学校 8年生
祇園小学校	54	
緑小学校	29	
石橋小学校	67	
古山小学校	65	
細谷小学校	4	
石橋北小学校	37	
国分寺小学校	109	
国分寺東小学校	46	
南河内第二中学校		93
石橋中学校		175
国分寺中学校		142
南河内小中学校	81	84
合計	492	494

学校別割合（小学5年生、5年生）



学校別割合（中学2年生、8年生）



【問2】 あなたの家のまわりの身近な環境について

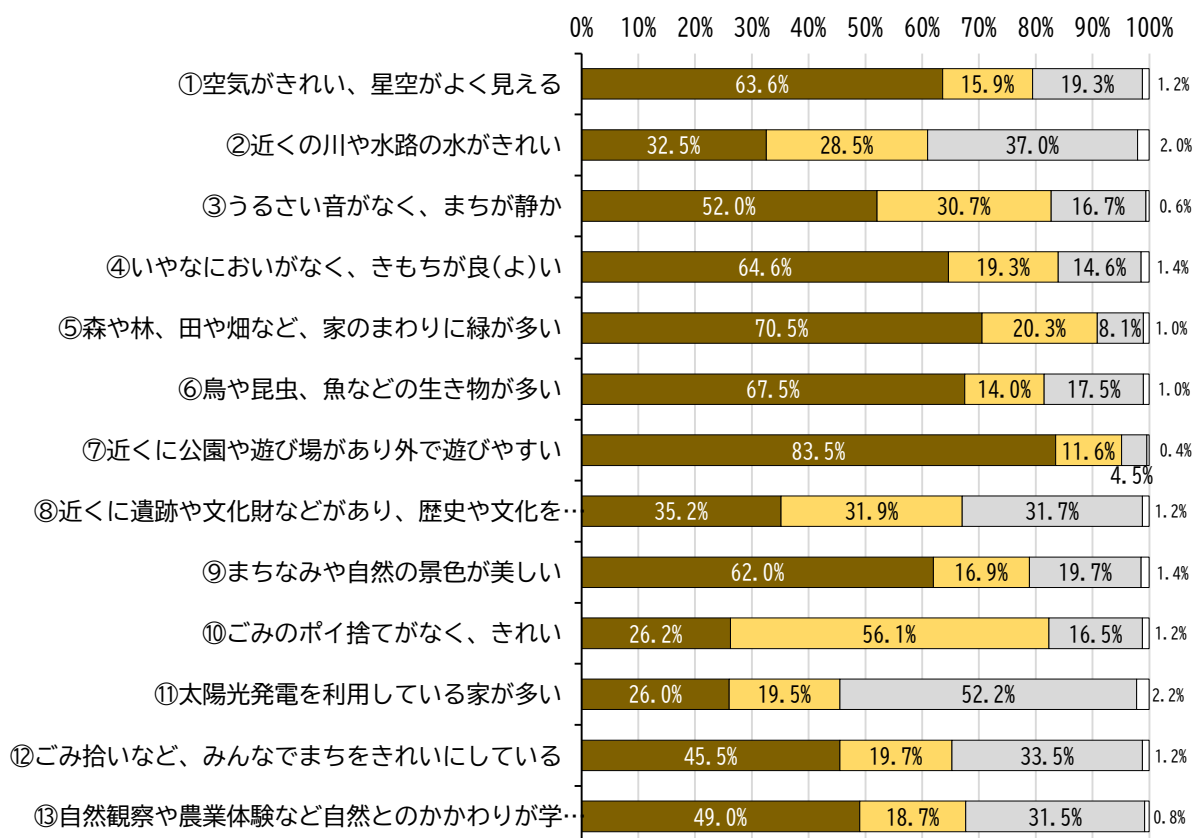
小学生・中学生とも身近な環境としてはほぼ同様を感じています。特に、「近くに公園や遊び場があり外で遊びやすい」「森や林、田や畑など、家のまわりに緑が多い」「鳥や昆虫、魚などの生き物が多い」と思っています。

「ごみのポイ捨てがなく、きれい」や「近くの川や水路の水がきれい」については、「そう思わない」がそれぞれ6割弱あり、また「太陽光発電を利用している家が多い」は「わからない」が5割以上あり、ともに低くなっています。

設問内容が少し異なりますが、小学生・中学生とも平成 23（2011）年度調査とほぼ同じような傾向となっています。全体的には「そう思う」割合が高く、「そう思わない」割合が減っており、改善が見られます。

特に、「近くに公園や遊び場があり外で遊びやすい」（小・中学生とも 80%以上）は、平成 23 年度の「いつでも遊べる楽しい自然の場所がある」より 20 ポイント高くなっています。「近くに遺跡や文化財などがあり、歴史や文化を感じる」（小学生 35%、中学生 46%）は平成 23 年度の「文化財など、歴史や文化がのこっている」（小学生 56%、中学生 60%）と比べ、15～20 ポイント低くなっています。

(1) 小学生 身近な環境について（小学5年生、5年生）



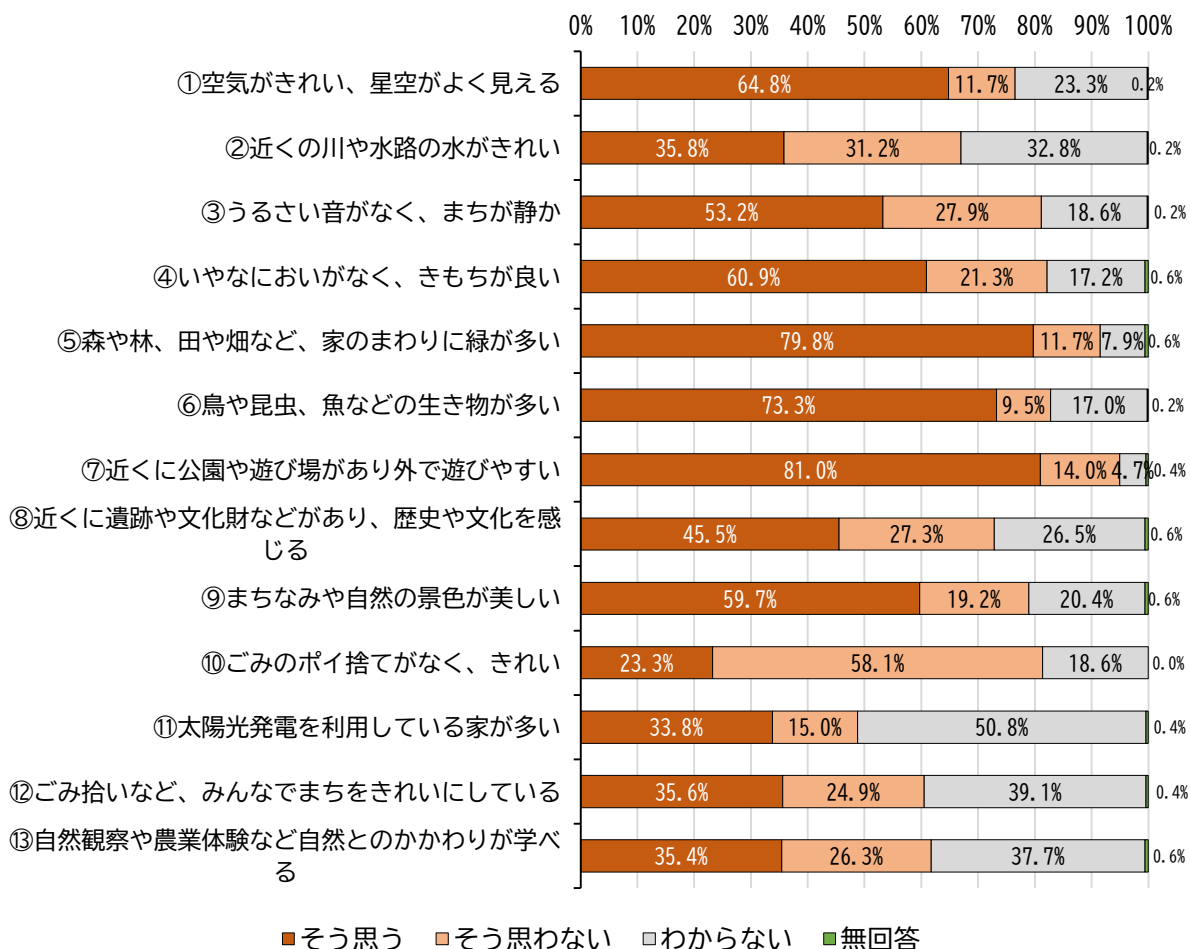
■ そう思う ■ そう思わない □ わからない □ 無回答

<参考> 学校別の「そう思う」が70%以上の内容

祇園小学校	近くに公園や遊び場があり外で遊びやすい (74%) 森や林、田や畑など、家のまわりに緑が多い (72%) 鳥や昆虫、魚などの生き物が多い (72%)
緑小学校	近くに公園や遊び場があり外で遊びやすい (90%) 森や林、田や畑など、家のまわりに緑が多い (76%) 自然観察や農業体験など自然とのかかわりが学べる (72%)
石橋小学校	近くに公園や遊び場があり外で遊びやすい (90%) 鳥や昆虫、魚などの生き物が多い (70%)
古山小学校	近くに公園や遊び場があり外で遊びやすい (91%) いやなおいがなく、きもちが良い (83%) 空気がきれい、星空がよく見える (71%)
細谷小学校	鳥や昆虫、魚などの生き物が多い (75%) ※2位以下、回答者数が少ないため対象外とする
石橋北小学校	森や林、田や畑など、家のまわりに緑が多い (87%) 空気がきれい、星空がよく見える (76%) 自然観察や農業体験など自然とのかかわりが学べる (76%) 鳥や昆虫、魚などの生き物が多い (73%)
国分寺小学校	近くに公園や遊び場があり外で遊びやすい (81%)
国分寺東小学校	近くに公園や遊び場があり外で遊びやすい (87%) 森や林、田や畑など、家のまわりに緑が多い (78%)
南河内小中学校 (5年生)	近くに公園や遊び場があり外で遊びやすい (74%) 森や林、田や畑など、家のまわりに緑が多い (72%) 鳥や昆虫、魚などの生き物が多い (72%)

(2) 中学生

身近な環境について（中学2年生、8年生）



<参考> 学校別の「そう思う」が70%以上の内容

南河内第二中学校	森や林、田や畑など、家のまわりに緑が多い（74%） 鳥や昆虫、魚などの生き物が多い（72%）
石橋中学校	近くに公園や遊び場があり外で遊びやすい（86%） 森や林、田や畑など、家のまわりに緑が多い（85%）
国分寺中学校	近くに公園や遊び場があり外で遊びやすい（82%） 鳥や昆虫、魚などの生き物が多い（75%） 森や林、田や畑など、家のまわりに緑が多い（73%）
南河内小中学校 （8年生）	森や林、田や畑など、家のまわりに緑が多い（87%） 鳥や昆虫、魚などの生き物が多い（82%） 空気がきれい、星空がよく見える（70%）

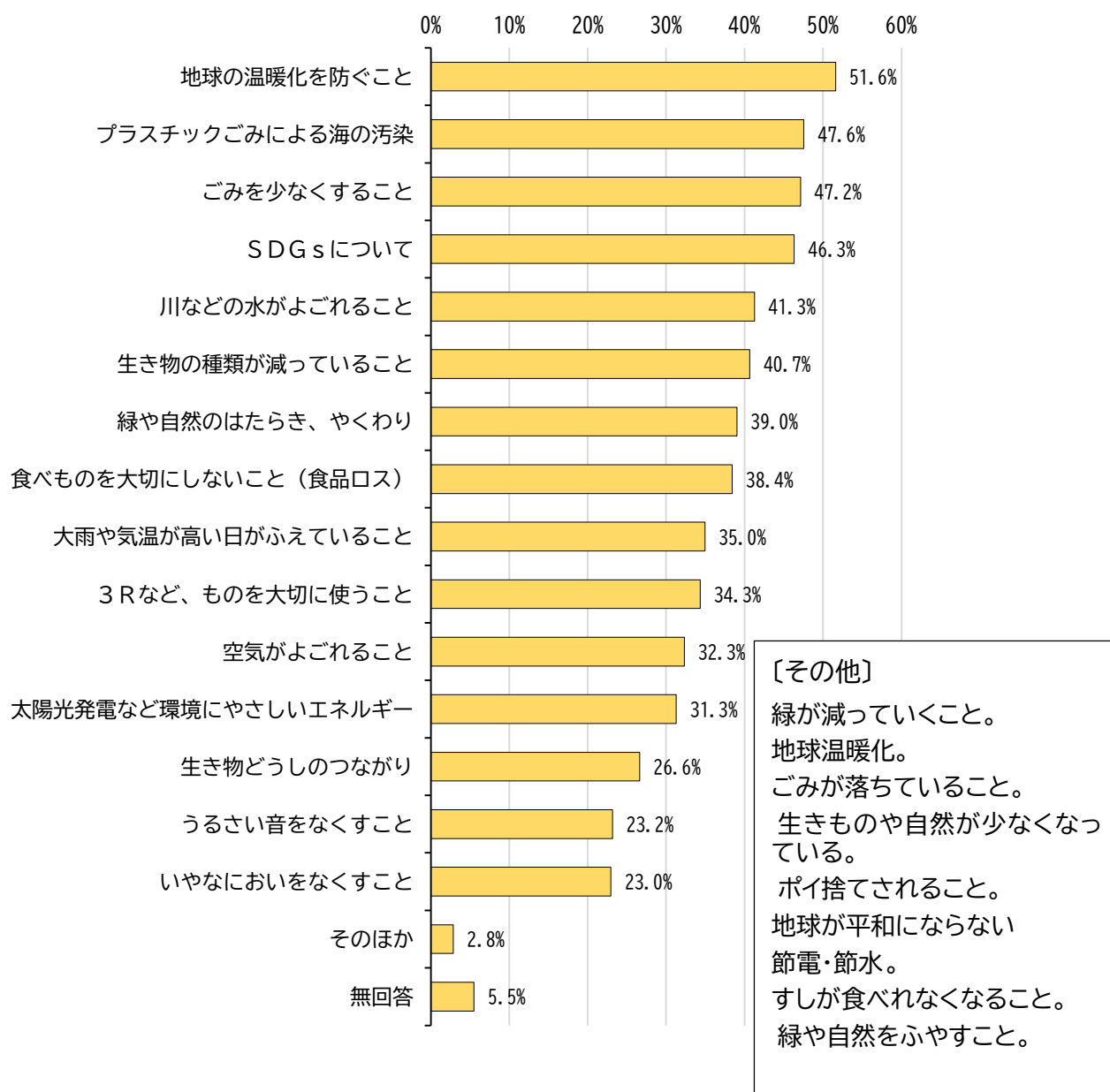
【問3】あなたが知りたいと思う環境の問題

知りたいと思う環境の問題については、小学生・中学生とも地球温暖化防止がともに50%前後と最も高く、次いで、SDGs やプラスチックごみの海洋汚染、ごみの減量が上位となっており、関心は高いといえます。

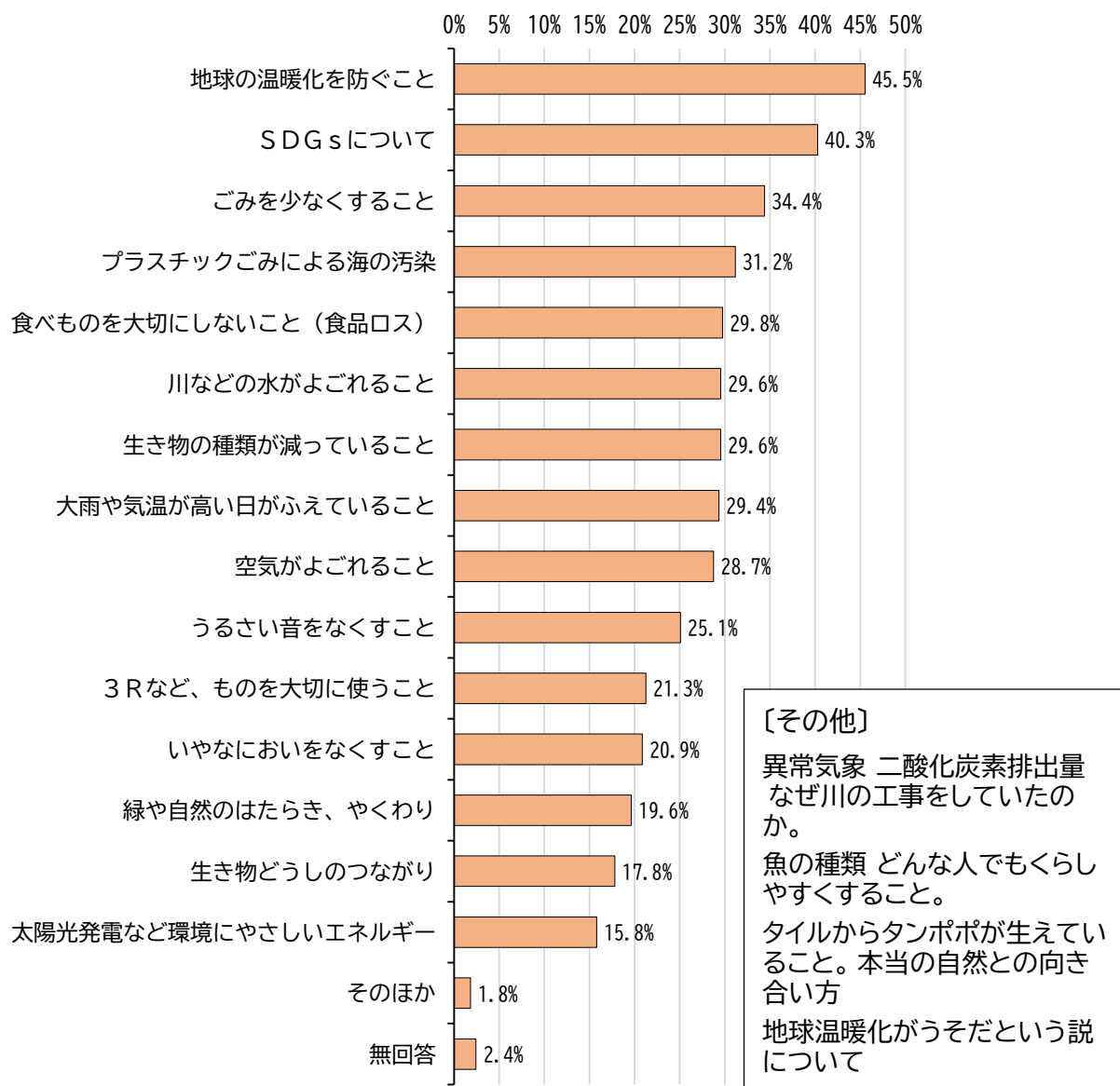
また、河川の水質汚濁や生物多様性の減少、食品ロスなどへの関心も上位に入っており、順位や回答率の違いはありますが小学生・中学生ともほぼ同じような傾向となっています。

全体的には、各項目とも小学生の方が、回答率が高くなっています。

(1) 小学生 知りたいと思う環境問題 (小学5年生、5年生)



(2) 中学生 知りたいと思う環境問題
(中学2年生、8年生)



平成 23 (2011) 年度調査でも、関心のある環境問題として「地球の温暖化の進行」や「ポイ捨てなど、ごみの散乱」が1位と3位となっており、今回と同様となっています。第2位の「原子力発電所事故や放射線による環境の汚染」は、2011年東日本大震災直後であり、小学生・中学生の関心も高くなったといえます。

また、環境について知りたいことでは、「水や空気をきれいにすること」が小学生・中学生とも4割弱で第1位となっていました。今回調査では「川などの水がよごれること」や「空気がよごれる」ことは、小学生・中学生とも5位以下となっており、川などの水辺とのふれあいの変化や環境問題に対する情報・学習内容の変化などが考えられます。

<参考> 学校別の環境問題への関心(上位 3 項目)

小学生

祇園小学校	プラスチックごみによる海の汚染 (54%) 地球の温暖化を防ぐこと (46%) SDGs について (44%)
緑小学校	川などの水がよごれること (66%) 地球の温暖化を防ぐこと (66%) SDGs について (66%)
石橋小学校	地球の温暖化を防ぐこと (54%) ごみを少なくすること (52%) プラスチックごみによる海の汚染 (42%) 大雨や気温が高い日がふえていること (42%)
古山小学校	プラスチックごみによる海の汚染 (52%) 緑や自然のはたらき、やくわり (51%) ごみを少なくすること (49%)
細谷小学校	※回答者数が少ないため対象外とする
石橋北小学校	ごみを少なくすること (73%) 川などの水がよごれること (70%) 地球の温暖化を防ぐこと (65%)
国分寺小学校	SDGs について (48%) 地球の温暖化を防ぐこと (40%) 食べものを大切にしないこと (食品ロス) (36%)
国分寺東小学校	地球の温暖化を防ぐこと (65%) SDGs について (61%) 生きものの種が減っていること (46%) プラスチックごみによる海の汚染 (46%)
南河内小中学校 (5年生)	地球の温暖化を防ぐこと (54%) プラスチックごみによる海の汚染 (53%) ごみを少なくすること (49%) 食べものを大切にしないこと (食品ロス) (49%)

中学生

南河内第二中学校	地球の温暖化を防ぐこと (43%) 空気がよごれること (39%) SDGs について (37%)
石橋中学校	SDGs について (46%) 地球の温暖化を防ぐこと (43%) 川などの水がよごれること (34%)
国分寺中学校	地球の温暖化を防ぐこと (51%) SDGs について (42%) 生きものの種が減っていること (37%)
南河内小中学校 (8年生)	ごみを少なくすること (47%) 地球の温暖化を防ぐこと (44%) プラスチックごみによる海の汚染 (37%)

【問4】毎日の生活でおこなっている環境にやさしい取りくみ

環境にやさしい取組として、「いつも行うようにしている」と「だいたい行っている」を合わせた「行っている」では、地域のごみ拾いなどへの参加や身近な場所の掃除、3Rの取組を除く多くの取組では、9割前後の小学生・中学生とも行っているとしており、環境にやさしい行動の普及が進み、日常化していることが伺えます。今後、「いつも行っている」割合を高めていくことが期待されます。

<参考>小学生・中学生で行っている割合90%以上の項目

小学生	中学生
1. ごみは、ごみ箱にきちんと入れるようにしている (95%)	1. ごみは、ごみ箱にきちんと入れるようにしている (98%)
2. 水道の水を流しっぱなしにしないなど、水を大切に使用している (95%)	2. ものを大切に使用している (96%)
3. 使っていない電気を消すなど、電気を大切にしている (94%)	3. 水道の水を流しっぱなしにしないなど、水を大切に使用している (96%)
4. ものを大切に使用している (93%)	4. 使っていない電気を消すなど、電気を大切にしている (95%)
	5. エコバッグや水筒などを持ち歩き、くり返し使用している (92%)

また、小学生・中学生とも行っている割合が特に低い「地域のごみ拾いへの参加」については、毎日のことではなく、限られた回数であること、また、新型コロナウイルスに伴う活動の減少などもあり、「わからない」も小学生で5割近く、中学生で6割と多くなったと言えます。身近な場所の掃除を手伝っているでは6割前後あり、ごみ拾いなどの行動は普段から行われていると考えられます。

自転車利用については、中学生は8割以上が利用していますが、小学生では15ポイント程度低くなっており、交通安全や防犯など利用の制約などによるものと考えられます。

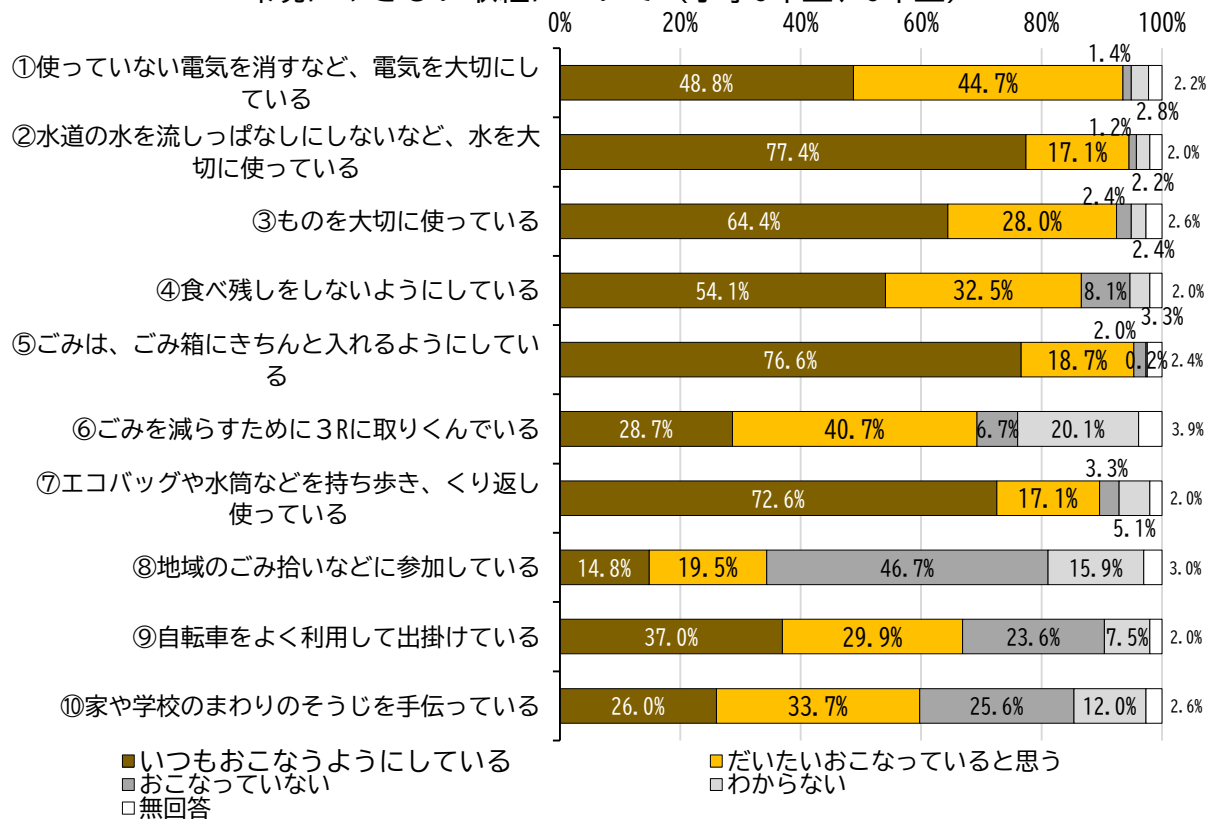
<参考>小学生・中学生で行っている割合が低い項目

小学生	中学生
1. 地域のごみ拾いなどに参加している (34%)	1. 地域のごみ拾いなどに参加している (25%)
2. 家や学校のまわりのそうじを手伝っている (60%)	2. 家や学校のまわりのそうじを手伝っている (61%)
3. 自転車をよく利用して出掛けている (67%)	3. ごみを減らすために3Rに取りくんでいる (63%)

平成23(2011)年度調査でも、環境にやさしい行動についてたずねており、節水や節電、ごみの減量などの取組を行っている割合は、今回調査では、全体的に市民と同様に向上傾向が見られます。

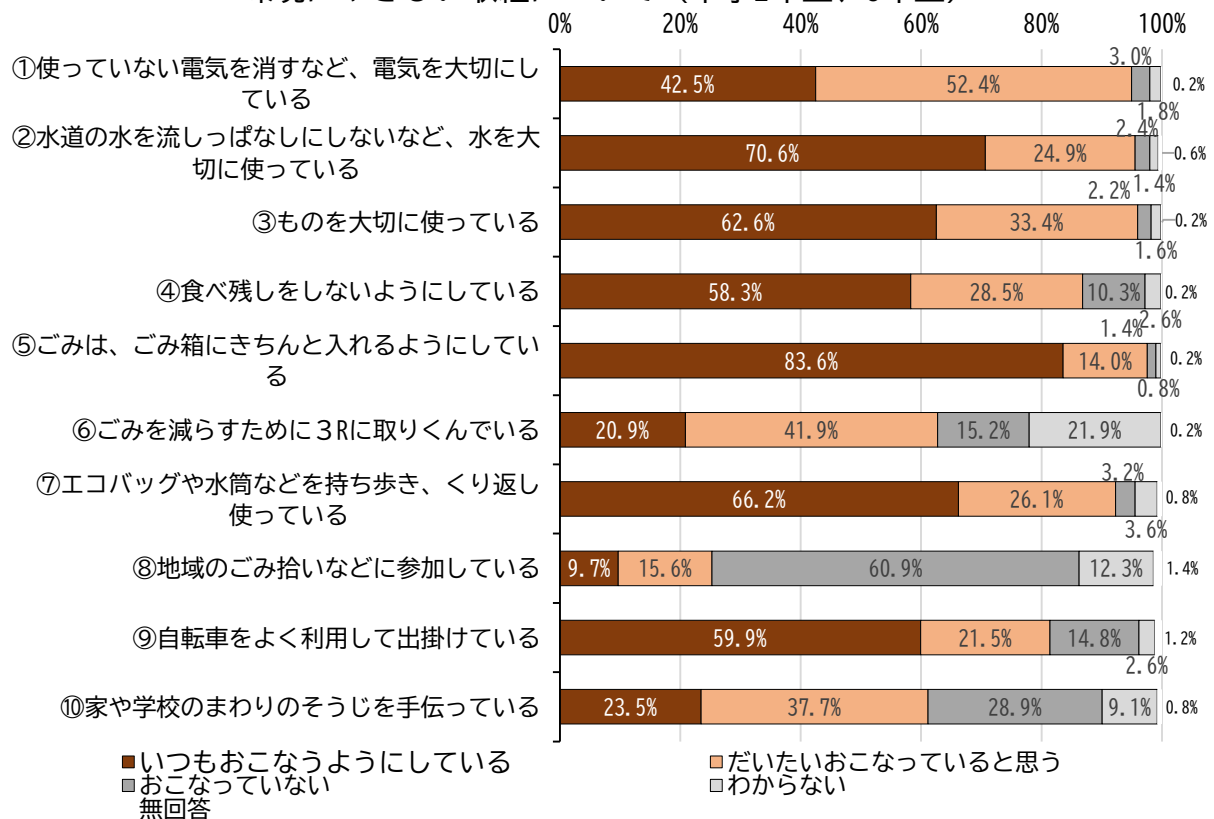
(1) 小学生

環境にやさしい取組について（小学5年生、5年生）



(2) 中学生

環境にやさしい取組について（中学2年生、8年生）



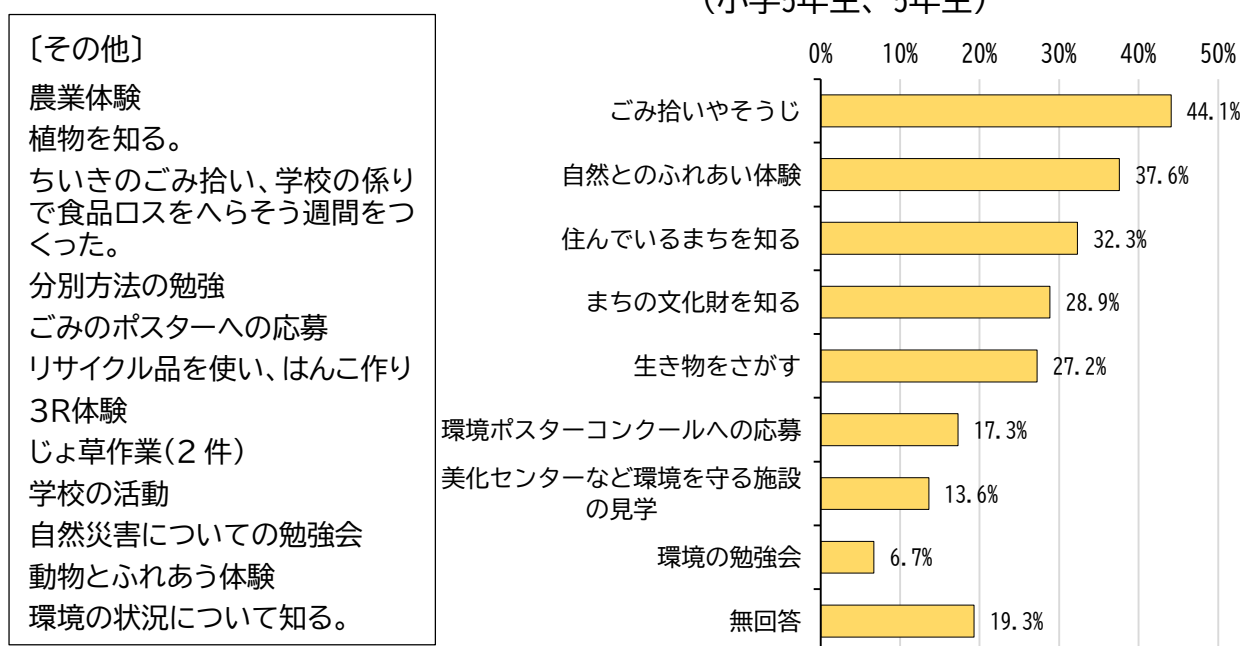
【問5】参加したことがある環境を守る活動

参加したことがある環境保全活動としては、「ごみ拾いやそうじ」が小学生44%、中学生51%で最も高くなっています。

次いで、小学生では「自然とのふれあい体験」や「住んでいるまちを知る」「まちの文化財を知る」となっているのに対し、中学生では「生きものをさがす」、「環境ポスターコンクールへの応募」などと、小学生と中学生で順位が異なります。

(1) 小学生

参加したことがある環境を守る活動
(小学5年生、5年生)



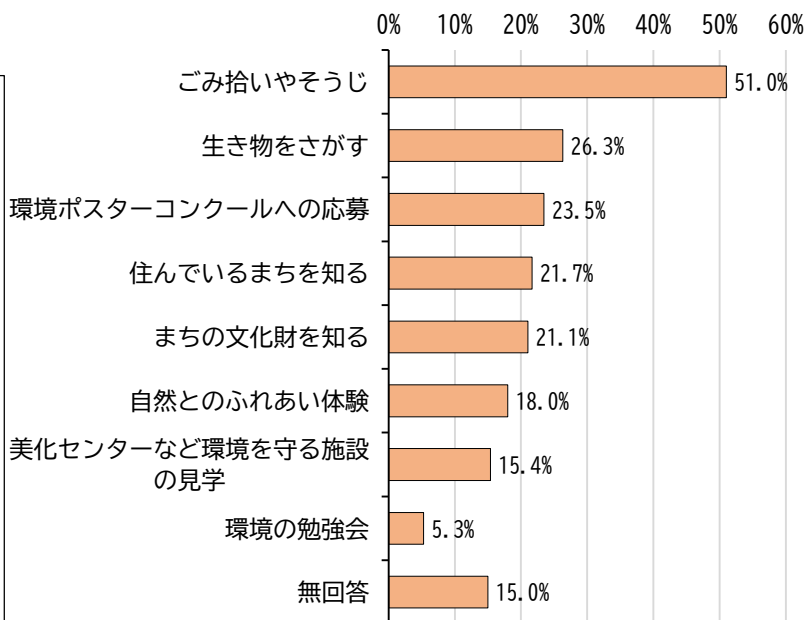
<参考> 学校別「参加したことがある」の割合が高い上位2項目

祇園小学校	ごみ拾いやそうじ (48%) 自然とのふれあい体験 (32%)
緑小学校	ごみ拾いやそうじ (76%) 環境ポスターコンクールへの応募 (52%)
石橋小学校	住んでいるまちを知る (30%) 美化センターなど環境を守る施設の見学 (30%)
古山小学校	ごみ拾いやそうじ (39%) 環境ポスターコンクールへの応募 (35%)
細谷小学校	住んでいるまちを知る (50%) ※2位以下回答者数が少ないため対象外とする
石橋北小学校	自然とのふれあい体験 (68%) 住んでいるまちを知る (65%)
国分寺小学校	ごみ拾いやそうじ (44%) まちの文化財を知る (27%)
国分寺東小学校	ごみ拾いやそうじ (37%) 自然とのふれあい体験 (33%)
南河内小中学校 (5年生)	ごみ拾いやそうじ (57%) 自然とのふれあい体験 (57%)

(2) 中学生

参加したことがある環境を守る活動
(中学2年生、8年生)

〔その他〕
あきカン集め、サイクリング除草、草むしり、草刈り
廃品回収 近所の草むしりなど、クリーン活動
じょそう作業、ごみをいとこといっしょにとった。
少しにているが、生きもの調査。花や野菜を育てる。町の医療技術について知る。
参加したことはありません。参加したことがない。分からない。



<参考> 学校別「参加したことがある」の割合が高い上位 2 項目

南河内第二中学校	ごみ拾いやそうじ (59%) 住んでいるまちを知る (32%) まちの文化財を知る (32%)
石橋中学校	ごみ拾いやそうじ (38%) 生きものをさがす (21%)
国分寺中学校	ごみ拾いやそうじ (53%) まちの文化財を知る (23%)
南河内小中学校 (8年生)	ごみ拾いやそうじ (66%) 環境ポスターコンクールへの応募 (43%)

【問6】環境をどのようにすれば良いと思うか

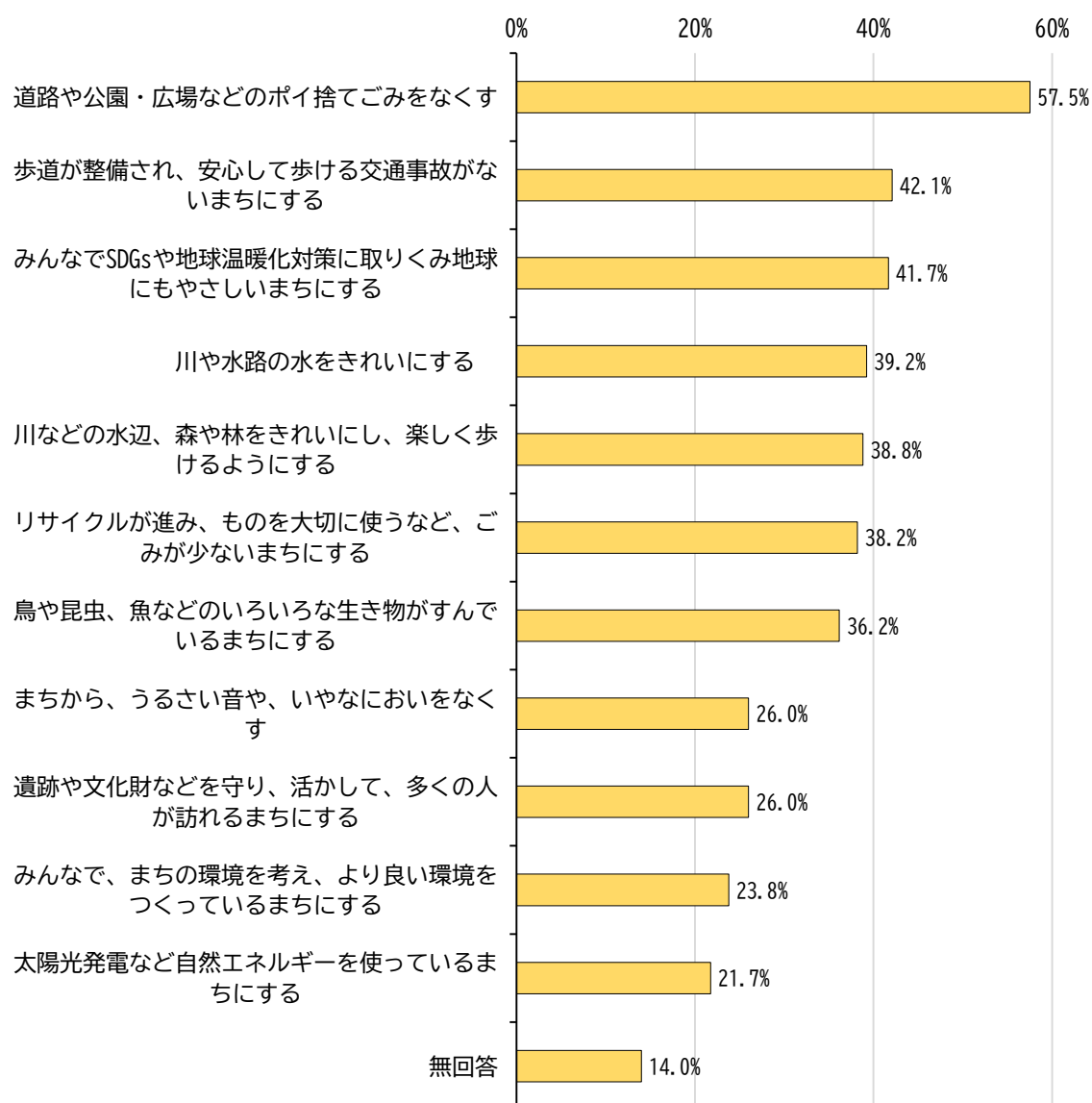
環境をそのようにすれば良いかでは、小学生・中学生とも「道路や公園・広場などのポイ捨てごみをなくす」で、それぞれ 60%前後と特に高くなっているほか、「歩道が整備され、安心して歩ける交通事故がないまちにする」「川などの水辺、森や林をきれいにし、楽しく歩けるようにする」など、身近な生活環境の改善が期待されています。

また、「川や水路の水をきれいにする」も 40%前後と、市や周辺地域との連携で進めていく必要がある項目も上位となっています。

こうした地域的な対策のほか、地球規模での取組の方針でもある「みんなでSDGs や地球温暖化対策に取り組み地球にもやさしいまちにする」は、小学生・中学生とも 40%以上で第3位となっています。

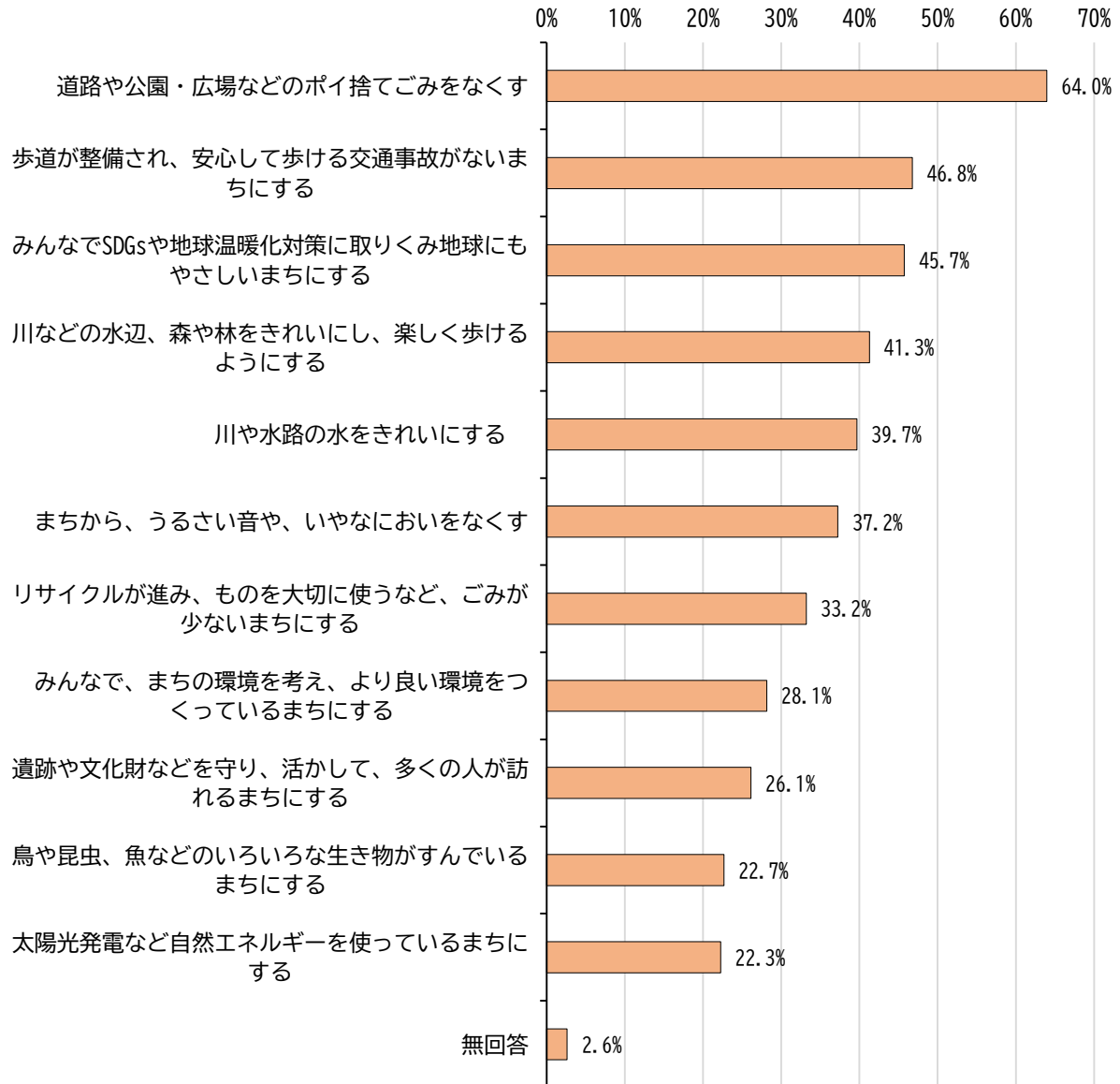
(1) 小学生

環境をどのようにしたら良いか (小学5年生、5年生)



(2) 中学生

環境をどのようにしたら良いか
(中学2年生、8年生)



<参考>学校別の上位3項目

小学生

祇園小学校	道路や公園・広場などのポイ捨てごみをなくす（48%） 歩道が整備され、安心して歩ける交通事故がないまちにする（37%） 鳥や昆虫、魚などのいろいろな生き物がすんでいるまちにする（33%） みんなでSDGsや地球温暖化対策に取り組み地球にもやさしいまちにする（33%）
緑小学校	道路や公園・広場などのポイ捨てごみをなくす（51%） 鳥や昆虫、魚などのいろいろな生き物がすんでいるまちにする（41%） みんなでSDGsや地球温暖化対策に取り組み地球にもやさしいまちにする（41%）
石橋小学校	道路や公園・広場などのポイ捨てごみをなくす（67%） 川などの水辺、森や林をきれいにし、楽しく歩けるようにする（46%） 歩道が整備され、安心して歩ける交通事故がないまちにする（46%） リサイクルが進み、ものを大切に使うなど、ごみが少ないまちにする（46%）
古山小学校	道路や公園・広場などのポイ捨てごみをなくす（65%） みんなでSDGsや地球温暖化対策に取り組み地球にもやさしいまちにする（51%） 川などの水辺、森や林をきれいにし、楽しく歩けるようにする（47%） 歩道が整備され、安心して歩ける交通事故がないまちにする（47%）
細谷小学校	※回答者数が少ないため対象外とする
石橋北小学校	道路や公園・広場などのポイ捨てごみをなくす（78%） 川や水路の水をきれいにする（60%） リサイクルが進み、ものを大切に使うなど、ごみが少ないまちにする（54%）
国分寺小学校	道路や公園・広場などのポイ捨てごみをなくす（54%） 歩道が整備され、安心して歩ける交通事故がないまちにする（42%） みんなでSDGsや地球温暖化対策に取り組み地球にもやさしいまちにする（40%）
国分寺東小学校	道路や公園・広場などのポイ捨てごみをなくす（44%） 歩道が整備され、安心して歩ける交通事故がないまちにする（44%） みんなでSDGsや地球温暖化対策に取り組み地球にもやさしいまちにする（37%）
南河内小中学校 （5年生）	道路や公園・広場などのポイ捨てごみをなくす（56%） みんなでSDGsや地球温暖化対策に取り組み地球にもやさしいまちにする（51%） 川などの水辺、森や林をきれいにし、楽しく歩けるようにする（48%）

中学生

南河内第二中学校	道路や公園・広場などのポイ捨てごみをなくす（60%） 川などの水辺、森や林をきれいにし、楽しく歩けるようにする（40%） 歩道が整備され、安心して歩ける交通事故がないまちにする（40%）
石橋中学校	道路や公園・広場などのポイ捨てごみをなくす（65%） みんなでSDGsや地球温暖化対策に取り組み地球にもやさしいまちにする（53%） 川などの水辺、森や林をきれいにし、楽しく歩けるようにする（45%）
国分寺中学校	道路や公園・広場などのポイ捨てごみをなくす（65%） 歩道が整備され、安心して歩ける交通事故がないまちにする（54%） まちから、うるさい音や、いやなおいをなくす（42%） みんなでSDGsや地球温暖化対策に取り組み地球にもやさしいまちにする（42%）
南河内小中学校 （8年生）	道路や公園・広場などのポイ捨てごみをなくす（67%） 歩道が整備され、安心して歩ける交通事故がないまちにする（52%） みんなでSDGsや地球温暖化対策に取り組み地球にもやさしいまちにする（45%）

【自由記載意見の概要（小学生・中学生）】

どんな環境のまちだったら良いか、また、どのような環境について知りたいかなどについて、多くの小学生・中学生から提案や意見をいただきました。ここでは、学校別にどのような意見等があったかをその件数で示しています。

小学生	回答数	記載者数	中学生	回答数	記載者数
祇園小学校	54	52	南河内第二中学校	93	80
緑小学校	29	27	石橋中学校	175	154
石橋小学校	67	54	国分寺中学校	142	122
古山小学校	65	55	南河内小中学校	84	68
細谷小学校	4	4			
石橋北小学校	37	37			
国分寺小学校	109	80			
国分寺東小学校	46	43			
南河内小中学校	81	70			

ここでは、各意見等を以下の①～⑪の分類で、それぞれの全般的な意見や具体的な内容の意見の件数を示しています。

- | | |
|--------------|-------------|
| ①環境全般 | ⑦自然環境・生物 |
| ②気候変動・地球温暖化 | ⑧緑・公園・歴史文化等 |
| ③3R・ごみ減量・資源化 | ⑨安全・交通等 |
| ④ごみ散乱・きれいさ | ⑩環境行動・協働 |
| ⑤大気環境・騒音等 | ⑪その他 |
| ⑥水環境・水辺・水資源 | |

〔※個々の意見等については別添（参考資料）参照〕

（小学生）

祇園小学校

こんな環境のまちだったらいいな	件数	具体的な内容	件数
② 気候変動・地球温暖化対策を進めるまち	3	太陽光発電など自然エネルギーを活用する	3
③ 3Rなどごみの減量・資源化を進めるまち	3		
④ ごみのない（散乱しない）、きれいなまち	4	ポイ捨てのないまち	8
⑤ 空気や水がきれいなまち	3	いやなおいがないまち	2
		うるさい音がしないまち	1
		農薬を使わないまち	1
⑦ 自然が豊かなまち	6	生きものがたくさんいる、ふれあえるまち	5
⑧ 緑あふれるまち	1		
⑨ 交通事故などが少ないまち	4		
⑩ 安心して暮らせる、心やさしいまちなど	2		
こんな環境のことを知りたい・学びたい	件数	（主な具体的な内容）	件数
① （環境全般）		SDGs について	3
② （気候変動・地球温暖化）		地球温暖化、CO ₂ について	4
③ （3Rなどごみの減量・資源化）		食品ロスについて	1
⑦ （自然・生物多様性）		生きものとのふれあい体験	1
⑧ （緑・公園・歴史文化・景観）		町の文化について	1

緑小学校

こんな環境のまちだったらいいな		件数	(具体的な内容)	件数
①	SDGsを進めるまち	1		
②	気候変動・地球温暖化対策を進めるまち	2		
③	3Rなどごみの減量・資源化を進めるまち	2		
④	ごみのない(散乱しない)、きれいなまち	1	ポイ捨てのないまち	3
⑦	自然が豊かなまち	1	生きものがたくさんいる、ふれあえるまち	3
⑧	緑あふれるまち	1		
⑨	交通事故などがないまち	1		
⑩	安心して暮らせる、気持ちよい、やさしい	2		
こんな環境のことを知りたい・学びたい		件数	(主な具体的な内容)	件数
①	環境全般について	1	SDGsについて	3
②	(気候変動・地球温暖化)		地球温暖化・CO ₂ について	1
③	3Rなどごみの減量・資源化について	1		
⑦	(自然・生物多様性)		生物多様性について	2
⑪	その他	1		

石橋小学校

こんな環境のまちだったらいいな		件数	(主な具体的な内容)	件数
①	SDGsを進めるまち、環境が良いまち	4		
②	地球温暖化対策を進めるまち	2	太陽光発電など自然エネルギーを活用する	1
			節電・省エネを進めるまち	1
③	3Rなどごみの減量・資源化を進めるまち	3		
④	ごみのない・きれいなまち	3	ごみを拾う	2
			ポイ捨てのないまち	11
⑤	(大気環境・空気がきれい)		いやなおいやうるさい音がしないまち	2
⑥	水環境・水資源、水がきれいなまち	1		
⑦	自然が豊かなまち	8	生きものがたくさんいる、ふれあえるまち	5
⑧	緑あふれるまち	1	木と花をふやすまち	1
⑨	交通事故などがないまち	3		
⑩	安心して暮らせる、心やさしいまちなど	4		
こんな環境のことを知りたい・学びたい		件数	(主な具体的な内容)	件数
①	(環境全般)		SDGsについて	2
③	3Rなどごみの減量・資源化	2		1

古山小学校

こんな環境のまちだったらいいな		件数	(主な具体的な内容)	件数
①	SDGs・地球温暖化対策を進めるまち	2	環境が良いまち	4
③	3Rなどごみの減量・資源化を進めるまち	3	食べ残しをしないまち	1
④	ごみのない(散乱しない)きれいなまち	1	ポイ捨てのないまち	8
⑥	(水環境・水資源)		水がきれいなまち	5
			うるさい音がしないまち	1
			農薬を使わないまち	1
⑦	自然が豊かなまち	10	生きものがたくさんいる、ふれあえるまち	4
⑩	安心して暮らせる、心やさしいまちなど	9		
こんな環境のことを知りたい・学びたい		件数	(主な具体的な内容)	件数
①	(環境全般)		SDGsについて	5
②	(気候変動・地球温暖化)		地球温暖化、CO ₂ について	3
			自然エネルギーについて	1
④	(ごみの散乱、清潔)		ポイ捨てされる場所について	1
⑦	生きものについて	1	自然とのふれあいについて	2
⑪	その他(環境学習)		環境を考え・環境をよくすることについて	2

細谷小学校

こんな環境のまちだったらいいな	件数	(主な具体的な内容)	件数
④ (ごみのない、きれいなまち)		ごみ拾い	1
⑤ 大気環境・きれいな空気のまち	1		
⑦ 自然が豊かなまち	1	緑化・木を植える	1

石橋北小学校

こんな環境のまちだったらいいな	件数	(主な具体的な内容)	件数
① SDGs と地球温暖化に取り組むまち	1		
② (気候変動・地球温暖化)		異常気象	1
		太陽光などを利用するまち	1
		節電・省エネに取り組むまち	1
④ ごみのない(散乱しない)、きれいなまち	3	ポイ捨てのないまち	9
⑦ 自然が豊かなまち	4	生きものがたくさんいる、ふれあえるまち	3
⑨ 交通事故などがないまち	1		
⑩ 安心して暮らせる、きづかひのまちなど	2		
こんな環境のことを知りたい・学びたい	件数	(主な具体的な内容)	件数
① (環境全般)		SDGs について	1
④ 海・海浜のごみについて	1	ポイ捨てについて、川や森をきれいにする	2
⑤ 環境汚染について	1		
⑥ (水環境・水資源)		節水について	2

国分寺小学校

こんな環境のまちだったらいいな	件数	(主な具体的な内容)	件数
① SDGs を進める・環境にやさしいまち	8	環境がよいまち	2
② 地球温暖化対策を進めるまち	3	CO ₂ を排出しないまち	2
③ 3R などごみの減量・資源化を進めるまち	6	プラスチックごみをなくす	1
④ ごみのない(散乱しない)、きれいなまち	10	ポイ捨てのないまち	14
		野鳥やペットのふんのないきれいなまち	2
⑤ 空気がきれいなまち	2	うるさい音がしないまち	1
⑥ 水環境・水資源、水がきれいなまち	4		
⑦ 自然が豊かなまち、自然にやさしいまち	11		
⑧ (緑あふれるまち)		自然の広場をつくる、林の整備	2
⑨ 交通事故などがないまち	8		
⑩ その他(無理しない、事件のないまち)	2		
こんな環境のことを知りたい・学びたい	件数	(主な具体的な内容)	件数
① 環境全般について	2	SDGs について	6
② 地球温暖化について	4	太陽光発電について	1
⑦ (自然・生物多様性)		生きものの学習	2

国分寺東小学校

こんな環境のまちだったらいいな	件数	(主な具体的な内容)	件数
① SDGs を進める・環境にやさしいまち	5	環境がよいまち、環境にやさしいまち	3
② (地球温暖化対策を進めるまち)		太陽光発電など自然エネルギーを利用する	2
		節電・省エネを進めるまち	1
③ 3R などごみの減量・資源化を進めるまち	2	プラスチックごみをなくす	1
④ ごみのない(散乱しない)、きれいなまち	3	ポイ捨てのないまち	4
⑤ 大気・空気がきれいなまち	1		
⑥ 水環境・水資源、水がきれいなまち	2		
⑦ 自然が豊かなまち、自然とのふれあい	6	生きものがたくさんいるまち	4
⑧ 緑あふれるまち	1		
⑨ 交通事故などがないまち	1		
⑩ 環境にやさしい行動が進むまち	2		
⑪ その他(いやな思いをしない、やさしいまち)	2		
こんな環境のことを知りたい・学びたい	件数	(主な具体的な内容)	件数
① SDGs について	4		
② 地球温暖化について	2		
④ (ごみの散乱、清潔など)		ポイ捨ての影響について	1
⑦ 自然について、海のことについて	3	生きものについて	2

南河内小中学校(5年生)

こんな環境のまちだったらいいな	件数	(主な具体的な内容)	件数
① 地球環境保全、SDGs を進めるまち	3	環境にやさしいまち、環境がよいまち	3
② (地球温暖化対策を進めるまち)		太陽光発電など自然エネルギーを利用する	2
④ ごみのない(散乱しない)、きれいなまち	7	ポイ捨てのないまち	10
⑤ (大気・空気がきれい、公害のないまち)		うるさい音がしないまち	5
⑥ 水環境・水資源、水がきれいなまち	3		
⑦ 自然が豊かなまち、自然とのふれあい	8	生きものがたくさんいるまち	10
⑧ 緑あふれるまち	1	いっぱい公園があるまち	1
		歴史文化とのふれあい	1
⑨ 交通事故などがないまち	1		
⑩ (環境学習・行動・協働のまち)		楽しい環境学習	1
⑪ その他(安全・安心、防犯など)	3		
こんな環境のことを知りたい・学びたい	件数	(主な具体的な内容)	件数
① 環境について	3	SDGs について	6
② 地球温暖化について	4	再生可能エネルギーについて	1
④ (ごみの散乱、清潔など)		ポイ捨てをなくすことについて	1
⑦ (自然環境)	3	生きものや植物について	1

(中学生)

南河内第二中学校

こんな環境のまちだったらいいな		件数	(主な具体的な内容)	件数
① 環境を良くするために	3	SDGsを進めるまち	1	
		環境がよいまち、環境にやさしいまち	2	
② 気候変動(暑さ)	1			
地球温暖化対策を進めるまち	2	節電・省エネを進めるまち	2	
		③ 3Rなどごみの減量・資源化を進めるまち	1	
プラスチックごみをなくす	2	食品ロス対策を進める	1	
		④ ごみのない(散乱しない)、きれいなまち	9	
ポイ捨てのないまち	5	野良猫の保護	1	
		⑤ 大気・空気がきれいなまち	4	
いやなにおいがしないまち	3	うるさい音がしないまち	8	
		⑥ 水環境・水資源、水がきれいなまち	5	
⑦ 自然が豊かなまち、自然とのふれあい	3	生きものがたくさんいるまち	5	
⑧ 緑あふれるまち、田園景観を守るまち	2	歴史・文化を育むまち、図書館が多いまち	3	
⑨ 交通事故などがないまち	2	夜でも明るく安全にあるけるまち	2	
⑩ 環境にやさしい行動が進むまち	2			
⑪ その他(安全・安心、楽しい、やさしいまち)	14			
こんな環境のことを知りたい・学びたい		件数	(主な具体的な内容)	件数
① SDGsについて	3			
② 地球温暖化について	1	再生可能エネルギーについて	2	
③ ごみ処理について	1	プラスチックごみによる影響について	1	
⑦ (自然環境、生物多様性など)		生きものについて	2	
⑧ (緑地・公園など)		公園の多いことについて	1	

石橋中学校

こんな環境のまちだったらいいな		件数	(主な具体的な内容)	件数
① 環境を良くするために	9	SDGsを進めるまち	4	
		環境がよいまち、環境にやさしいまち	7	
② 気候変動対策	2			
地球温暖化対策を進めるまち	1			
③ 3Rなどごみの減量・資源化を進めるまち	3	食品ロス対策を進めるまち	1	
④ ごみのない(散乱しない)、きれいなまち	12	ポイ捨てのないまち	16	
		⑤ 大気・空気がきれいなまち	4	
いやなにおいがしないまち	2	うるさい音がしないまち	7	
		空地・空き家、雑草のないまち	2	
⑥ 水環境・水資源、水がきれいなまち	9			
⑦ 自然が豊かなまち、自然とのふれあい	15	生きものがたくさんいるまち	6	
⑧ 緑あふれるまち、田園景観を守るまち	8	歴史・文化を育むまち	1	
⑨ 交通事故などがないまち	6	歩道・道路の整備されたまち	3	
⑩ 環境学習を進める	3	環境行動を進める	4	
		協働を進める	4	
⑪ その他(安全・安心、楽しい、やさしいまち)	13			
こんな環境のことを知りたい・学びたい		件数	(主な具体的な内容)	件数
① 環境全般について	5	SDGsについて	5	
② 地球温暖化について	4			
③ 3Rについて	1			
⑤ (環境汚染)		水や空気をきれいにするためには	2	
⑦ (自然環境、生物多様性など)		生きものについて	6	

〔※個々の意見等については別添(参考資料)参照〕

国分寺中学校

こんな環境のまちだったらいいな	件数	(主な具体的な内容)	件数
① SDGs や地球温暖化、環境を良くするまち	9	SDGs を進めるまち	3
		環境がよいまち、環境にやさしいまち	4
② 地球温暖化対策を進めるまち	1	再生可能エネルギーの利用を進めるまち	4
		節電・省エネを進めるまち	2
③ リサイクルを進める	1	食品ロス対策を進める	4
④ ごみのない(散乱しない)、きれいなまち	10	ポイ捨てのないまち	14
⑤ 大気・空気がきれいなまち	4	いやなにおいがしないまち	3
		うるさい音がしないまち	6
		空地。空き家、雑草が少ないまち	1
⑥ 水環境・水資源、水がきれいなまち	8		
⑦ 自然が豊かなまち、自然とのふれあい	5	生きものがたくさんいるまち	9
⑧ 緑あふれるまち	7	公園の整備	1
		歴史・文化を育むまち	1
⑨ 交通事故などがないまち	3	歩道や道路が整備されたまち	7
⑩ 環境学習や環境にさしい行動が進むまち	7		
⑪ その他(安全・安心、楽しい、やさしいまち)	11		
こんな環境のことを知りたい・学びたい	件数	(主な具体的な内容)	件数
① 環境全般について	3	SDGs について	4
② 地球温暖化について	6	再生可能エネルギーについて	1
③ リサイクルについて	1		
④ (ごみの散乱、清潔)		ポイ捨てをなくすためには	1
⑦ (自然環境、生物多様性など)		生きものについて	1

南河内小中学校(8年生)

こんな環境のまちだったらいいな	件数	(主な具体的な内容)	件数
① 良い環境をつくる	1	SDGs を進めるまち	2
		環境が豊かで・きれいで気持ちが良いまち	2
② (地球温暖化対策を進める)		エネルギーが効率利用されるまち	1
③ 3R などごみの減量・資源化を進めるまち	4	食品ロス対策を進めるまち	1
④ ごみのない(散乱しない)、きれいなまち	7	ごみ拾い活動を進めるまち	2
		ポイ捨てのないまち	14
		動物の死骸などがない清潔なまち	1
⑤ 大気・空気がきれいなまち	1	うるさい音がしないまち	8
⑥ 水環境・水資源、水がきれいなまち	6		
⑦ 豊かな自然のまち	2		
⑧ 緑あふれるまち、公園が多いまち	6		
⑨ 交通事故などがないまち	3	歩道や道路が整備されているまち	2
⑩ 環境学習・環境にやさしい行動が進むまち	2		
⑪ その他	1		
こんな環境のことを知りたい・学びたい	件数	(主な具体的な内容)	件数
① SDGs、地球温暖化対策について。	3	再生可能エネルギーについて	1
③ 3R・リサイクルについて	1	プラスチックごみによる影響について	2
⑦ (自然環境、生物多様性など)		生きものについて	1